



Cisco Unified IP Phone

Cisco Unified IP Phone は、多機能な電話機であり、IP ネットワークに直接接続できます。H.323 クライアント、CTI ポート、および Cisco IP Communicator は、ソフトウェア ベースのデバイスから構成されているため、Cisco Unified IP Phone と同様に設定できます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用すると、自動転送やコール ウェイティングなどの電話機能を、ご使用の電話機に設定できます。また、電話ボタン テンプレートを作成して、多数の電話機に共通のボタン設定を割り当てることもできます。

システム管理者は電話機を追加した後、その電話機をユーザに関連付けることができます。ユーザを電話機に関連付けると、そのデバイスに対する制御権をそのユーザに渡すことになります。

この章の構成は、次のとおりです。

- サポートされている Cisco Unified IP Phone (P.37-2)
- SIP をサポートする Cisco Unified IP Phone (P.37-9)
- H.323 クライアントと CTI ポート (P.37-9)
- Cisco IP Communicator (P.37-10)
- Cisco Unified Personal Communicator (P.37-10)
- Cisco TelePresence (P.37-10)
- コーデックの使用 (P.37-11)
- 電話ボタン テンプレート (P.37-13)
- プログラム可能な回線キー (P.37-21)
- ソフトキー テンプレート (P.37-23)
- ソフトキー テンプレートの動作 (P.37-27)
- 共通電話機プロファイル (P.37-28)
- 電話機を追加する方法 (P.37-29)
- 電話機能 (P.37-30)
- 電話機に関連付け (P.37-41)
- 電話機管理上のヒント (P.37-41)
- 電話機のフェールオーバーとフォールバック (P.37-46)
- 電話機設定チェックリスト (P.37-47)
- 参考情報 (P.37-51)

サポートされている Cisco Unified IP Phone

表 37-1 に、Cisco Unified Communications Manager がサポートする次の Cisco Unified IP Phone について、それぞれのモデルの機能の概要を示します。

- Cisco Unified IP Phone 7900 ファミリ (SCCP および SIP プロトコル)
- Cisco Unified IP Video Phone 7985
- Cisco Unified IP Phone 拡張モジュール 7914
- Cisco IP Conference Station 7935 および 7936
- Cisco IP Phone 30 VIP
- Cisco IP Phone 12 シリーズ

これらの電話機モデルをサポートする機能とサービスの最新情報については、次の資料を参照してください。

- 電話機モデルおよびこのバージョンの Cisco Unified Communications Manager をサポートする電話機の管理またはユーザ マニュアル
- 使用する電話機モデルのファームウェア リリース ノート
- Cisco Unified Communications Manager リリース ノート

表 37-1 サポートされている Cisco Unified IP Phone と機能

Cisco Unified IP Phone モデル	説明
Cisco Unified IP Phone 7970 および Cisco Unified IP Phone 7971	<p>Cisco Unified IP Phone 7970 および 7971 はフル機能を搭載した、8 回線を備えたビジネス用電話機。SCCP プロトコルと SIP プロトコル、および次の機能をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コールの詳細と機能に簡単にアクセスするためのバックライト付き、カラー タッチスクリーン ディスプレイ • 4 つの固定機能ボタン <ul style="list-style-type: none"> – メッセージ：ボイスメール メッセージへのアクセス – 設定：電話機の設定の調整用 – サービス：サービスへのアクセス – ディレクトリ：コール ログおよびディレクトリへのアクセス • コール機能のアシスタントをただちに提供するヘルプ ボタン • 回線ボタン、短縮ダイヤル ボタン、またはその他の電話サービスとして使用するプログラム可能な 8 つのボタン • その他のコールの詳細と機能にアクセスするための 5 つのソフトキー (合計 16 個のソフトキーは、コール状態に応じて変動) • 内蔵双方向全二重スピーカフォンとマイクロフォンのミュート機能 <p>Cisco Unified IP Phone 7970/71G-GE は、Cisco Unified IP Phone 7970/71 のギガビット イーサネット バージョンです。Cisco Unified IP Phone 7970G は、非ギガビット イーサネット バージョンです。</p>

表 37-1 サポートされている Cisco Unified IP Phone と機能 (続き)

Cisco Unified IP Phone モデル	説明
Cisco Unified IP Phone 7960 および Cisco Unified IP Phone 7961	<p>Cisco Unified IP Phone 7960 および 7961 はフル機能を搭載した、6 回線を備えたビジネス用電話機。SCCP プロトコルと SIP プロトコル、および次の機能をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ヘルプ (?) ボタン • 回線、短縮ダイヤル、または機能ボタンとして使用する 6 つのプログラム可能なボタン • ボイスメール メッセージへのアクセス、電話機の設定値の調整、サービスへのアクセス、およびディレクトリへのアクセス用の 4 つの固定ボタン • その他のコールの詳細と機能にアクセスするための 4 つのソフトキー (合計 16 個のソフトキーは、コール状態に応じて変動) • コールの詳細とソフトキーの機能を表示する、大型 LCD ディスプレイ • 内蔵双方向全二重スピーカフォンとマイクロフォンのミュート機能 <p>Cisco Unified IP Phone 7961-GE は、Cisco Unified IP Phone 7961 のギガビット イーサネット バージョンです。Cisco Unified IP Phone 7961G は、非ギガビット イーサネット バージョンです。</p>
Cisco Unified IP Phone 7940 および Cisco Unified IP Phone 7941	<p>Cisco Unified IP Phone 7940 および 7941 は、Cisco Unified IP Phone 7960 とほぼ同等の機能を持つ、2 回線を備えたビジネス用電話機。SCCP プロトコルと SIP プロトコルをサポートし、次の機能があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ヘルプ (?) ボタン • 回線、短縮ダイヤル、または機能ボタンとして使用する 2 つのプログラム可能なボタン • ボイスメール メッセージへのアクセス、サービス、ディレクトリ、および電話機の設定値の調整用の 4 つの固定ボタン • その他のコールの詳細と機能にアクセスするための 4 つのソフトキー (合計 16 個のソフトキーは、コール状態に応じて変動) • コールの詳細とソフトキーの機能を表示する、大型 LCD • 内蔵双方向全二重スピーカフォンとマイクロフォンのミュート機能 <p>Cisco Unified IP Phone 7941G-GE は、Cisco Unified IP Phone 7941 のギガビット イーサネット バージョンです。Cisco Unified IP Phone 7941G は、非ギガビット イーサネット バージョンです。</p>

表 37-1 サポートされている Cisco Unified IP Phone と機能 (続き)

Cisco Unified IP Phone モデル	説明
Cisco Unified IP Phone 7931	<p>Cisco Unified IP Phone 7931 は、従来のキーセットに慣れているユーザを対象として設計され、デジタル ビジネス電話機とほぼ同等の機能を装備。コールの発着信のほか、ミュート、保留、転送、短縮ダイヤル、自動転送などの機能を使用することが可能で、次の特徴があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ピクセル ベースのバックライト付きディスプレイ • 24 個の設定可能な回線ボタン • ワイドバンドヘッドセット オプション: デフォルトでは無効になっています (有効にする必要があるのは、ユーザのヘッドセットがワイドバンドをサポートしている場合のみ)。 • 短縮ダイヤル (ソフトキー) • オーディオメッセージ受信のインジケータ • 設定可能な自動転送表示 • 自動転送の宛先の上書き • コールの録音 • ダイレクト コール パーク • サイレント (DND; Do Not Disturb) • ビデオサポート • 音声統合システム
Cisco Unified Wireless IP Phone 7920	<p>Cisco Wireless IP Phone 7920 は操作が容易な IEEE 802.11b 準拠の無線 IP Phone。Cisco Unified Communications Manager および Cisco Aironet 1200、1100、350、および 340 シリーズの Wi-Fi (IEEE 802.11b) アクセス ポイントとともに使用でき、包括的な音声通信を提供します。次の機能をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コール機能に直感的にアクセスできるピクセルベースのディスプレイ • ユーザにコール オプションを動的に提供する 2 つのソフトキー • 表示された情報の間を簡単に移動できる 4 方向のロッカー スイッチ • 使用中にハンドセット音量と呼び出し音量をデシベル レベルで簡単に調整できる音量制御

表 37-1 サポートされている Cisco Unified IP Phone と機能 (続き)

Cisco Unified IP Phone モデル	説明
Cisco Unified IP Phone 拡張モジュール 7914	<p>Cisco Unified IP Phone 拡張モジュール 7914 は、Cisco Unified IP Phone 7960 の機能を拡張する 14 個の追加ボタンを提供。これらのボタンを回線または短縮ダイヤルとして設定するには、[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] を使用します。</p> <p> (注) Cisco Unified IP Phone 拡張モジュール 7914 の電話ボタンテンプレートは、標準 Cisco Unified IP Phone 7960 で使用される電話ボタンテンプレートの名前を変更することで作成できます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定」を参照してください。</p> <p>Cisco Unified IP Phone 拡張モジュール 7914 は、ボタンの機能と回線の状態を示す LCD を備えています。</p> <p>2 台の Cisco Unified IP Phone 拡張モジュール 7914 をダイジェチェーン接続すると、28 個の回線、または短縮ダイヤルおよび機能ボタンを追加できます。</p>
Cisco Unified IP Phone 7912	<p>Cisco Unified IP Phone 7912 は、同時に最大 2 つのコールをサポートする単一回線の電話機。SCCP と SIP をサポートし、処理する電話トラフィック量が小～中程度の場合に適した基本機能を提供します。</p> <p>この電話機は、インラインパワーをサポートし、同時使用する PC との接続に一体型 10/100 イーサネットスイッチを提供します。</p> <p>この電話機には、4 つのダイナミック ソフトキーが用意されています。</p>
Cisco Unified IP Phone 7911	<p>Cisco Unified IP Phone 7911 は、同時に最大 6 つのコールをサポートする単一回線の電話機。SCCP と SIP をサポートし、処理する電話トラフィック量が小～中程度の場合に適した基本機能を提供します。</p> <p>Cisco Unified IP Phone 7911 のメニューは、Cisco Unified IP Phone 7970 のメニューとほとんど同じです。アプリケーションメニューボタンを押すと、メインアプリケーションメニューが開きます。</p> <p>この電話機は、インラインパワーをサポートし、同時使用する PC との接続に一体型 10/100 イーサネットスイッチを提供します。</p> <p>この電話機には、4 つのダイナミック ソフトキーが用意されています。</p>

表 37-1 サポートされている Cisco Unified IP Phone と機能 (続き)

Cisco Unified IP Phone モデル	説明
Cisco Unified IP Phone 7910	<p>Cisco Unified IP Phone 7910 は、基本機能を備えた、単一回線の電話機。主にロビーや休憩室などの、中程度の電話トラフィックがある共用の場所用に設計されています。次の機能をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 4つの専用機能ボタン (回線、保留、転送、および設定) • Cisco Unified Communications Manager 中の電話ボタン テンプレートを使用して設定可能な、6つのプログラム可能な機能ボタン <p>利用可能な機能には、コールパーク、リダイヤル、短縮ダイヤル、コール ピックアップ、会議、すべてのコールの転送、メッセージ受信、およびミーティング会議があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話番号、コール状況、日付と時刻を表示する、2行 LCD (1行当たり 24文字) • ハンドフリー ダイヤル用に設計されている内蔵スピーカ
Cisco Unified IP Phone 7906	<p>Cisco Unified IP Phone 7906 は、同時に最大 6つのコールをサポートする単一回線の電話機。SCCP と SIP をサポートし、処理する電話トラフィック量が小～中程度の場合に適した基本機能を提供します。</p> <p>Cisco Unified IP Phone 7906 のメニューは、Cisco Unified IP Phone 7970 のメニューとほとんど同じです。アプリケーションメニューボタンを押すと、メインアプリケーションメニューが開きます。</p> <p>この電話機は、インラインパワーをサポートし、同時使用する PC との接続に一体型 10/100 イーサネット スイッチを提供します。</p> <p>この電話機には、4つのダイナミック ソフトキーが用意されています。</p>
Cisco Unified IP Phone 7905	<p>Cisco Unified IP Phone 7905 は、基本機能を備えた単一回線の低価格電話機。主にカフェテリアや休憩室、ロビー、製造フロアなどの共用の場所用に設計されています。SCCP と SIP をサポートし、次の機能があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 時刻、日付、電話番号、発信者 ID、コール状況、ソフトキータブなどの機能を表示する LCD • 対応する LCD タブに表示される機能と連動する 4つのソフトキー (ソフトキーの機能は、電話機のステータスによって変わります) • 保留、メニュー、およびナビゲーション用の 3つの専用機能ボタン • ハンドフリー ダイヤル用に設計されている内蔵スピーカ

表 37-1 サポートされている Cisco Unified IP Phone と機能（続き）

Cisco Unified IP Phone モデル	説明
Cisco Unified IP Phone 7902	<p>Cisco Unified IP Phone 7902 は、ロビー、研究室、製造フロア、または基本コール機能だけが必要とされる場所に対するコストパフォーマンスに優れたエン트리 レベルの IP Phone。単一回線の Cisco Unified IP Phone 7902 は、次の機能をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リダイヤル、転送、会議、ボイス メッセージ アクセス機能にワンタッチでアクセスできる固定機能キー • 保留、メニュー、および音量調節用の 3 つの専用機能ボタン • LAN 経由での電話機への電源供給が可能なインライン パワー
Cisco Unified IP Phone 7985	<p>Cisco Unified IP Phone 7985G は、コンピュータと同じデータ ネットワークを使用してビジネス品質のビデオを提供する電話機。このテレビ電話は、Cisco Unified IP Phone と同じソフトキー機能とその他の機能を提供します。この機能により、コールの発信と受信、コール保留、コール転送、会議コールの発信などを行うことができます。Cisco Unified IP Phone 7985G は、次の機能をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • カラー画面 • 最大 8 つの回線番号または短縮ダイヤル番号 • ボタンと機能に関する文脈依存オンライン ヘルプ
Cisco Unified IP Conference Station 7936	<p>Cisco IP Conference Station 7936 は、多機能型の IP ベースのハンドフリー電話会議用の端末。デスクトップやオフィス、中小規模の会議室での使用に適しています。次の機能をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コール機能、およびコールパーク、コールピックアップ、グループコールピックアップ、転送、会議（アドホックおよびミートミー）などの使用可能な機能の使用方法をユーザにガイドする、3 つのソフトキーとメニューナビゲーションキー • 日付と時刻、発信側の名前、発信側の番号、ダイヤルされた数字、機能、および回線状況を知らせる LCD • 会議の参加者が会話中に移動できるようにする、デジタル調整スピーカと 3 つのマイクロフォン • マイクロフォン ミュート機能 • 面積が広い部屋をサポートするために外部マイクロフォンを追加する機能

表 37-1 サポートされている Cisco Unified IP Phone と機能 (続き)

Cisco Unified IP Phone モデル	説明
Cisco IP Conference Station 7935	<p>Cisco IP Conference Station 7935 は、多機能型の IP ベースのハンドフリー電話会議用の端末。デスクトップやオフィス、中小規模の会議室での使用に適しています。次の機能をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザがコール機能を使えるようにガイドする、3 つのソフトキーとメニューナビゲーションキー <p>使用可能な機能には、コールパーク、コールピックアップ、グループコールピックアップ、転送、および会議（アドホックおよびミーティング）があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日付と時刻、発信側の名前、発信側の番号、ダイヤルされた数字、機能、および回線状況を知らせる LCD • 会議の参加者が会話中に移動できるようにする、デジタル調整スピーカと 3 つのマイクロフォン • マイクロフォンミュート機能
Cisco IP Phone 12 SP+	<p>Cisco IP Phone 12 SP+ は、PBX または POTS 電話機と同じ機能を多く備えています。次の機能をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プログラム可能な回線ボタンと機能ボタン (12 個) • 12 個の機能ボタンと回線ボタンのそれぞれに対応していて、機能と回線状況を知らせる LED • コール状況と ID を表示するための 2 行表示の LCD (1 行当たり 20 文字) • 内蔵 2 ウェイスピーカフォンとマイクロフォンのミュート機能
Cisco IP Phone 30 VIP	<p>Cisco IP Phone 30 VIP は、PBX または POTS 電話機と同じ機能を多く備えています。次の機能をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プログラム可能な回線ボタンと機能ボタン (26 個) • 26 個の機能ボタンと回線ボタンのそれぞれに対応していて、機能と回線状況を知らせる LED • 日付と時刻、発信側の名前、発信側の番号、およびダイヤルされた数字を表示するための、2 行表示の LCD • マイクロフォンミュート機能付き、内蔵 2 ウェイスピーカフォン • 転送、保留、およびリダイヤル用の専用機能ボタン
Cisco Unified SIP Phone 3951	<p>Cisco Unified SIP Phone 3951 は、アジア太平洋およびラテンアメリカ諸国でのみ使用可能なローエンドの SIP 電話機であることに注意してください。詳細については、代理店にお問い合わせください。</p>

SIP をサポートする Cisco Unified IP Phone

Cisco Unified Communications Manager は、次の Cisco Unified IP Phone 上で SIP をサポートします。

- Cisco Unified IP Phone 7975
- Cisco Unified IP Phone 7970/71
- Cisco Unified IP Phone 7965/45
- Cisco Unified IP Phone 7960/61
- Cisco Unified IP Phone 7940/41
- Cisco Unified IP Phone 7911/06
- Cisco Unified IP Phone 7905/12

管理者は Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、IP Phone を SCCP または SIP 用に設定します。SIP 用に設定する場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの追加の設定ウィンドウ ([SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] など) を使用して、SIP を設定します。設定の要件については、表 37-8 を参照してください。SIP プロファイルと SIP ダイアル ルールについては、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「SIP のダイアルルール設定」および「SIP プロファイルの設定」の項を参照してください。

H.323 クライアントと CTI ポート

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用すると、H.323 クライアントや CTI ポートなどのソフトウェア ベース デバイスを設定できます。ソフトウェア ベースの Cisco Unified Communications Manager アプリケーション (たとえば、Cisco IP Softphone、Cisco Unified Communications Manager Auto-Attendant、および Cisco IP IVR) は、仮想デバイスである CTI ポートを使用します。

H.323 クライアントには、Microsoft NetMeeting デバイスが含まれます。

H.323 クライアントと CTI ポートは、電話機の設定と同じように、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して設定します。しかし多くの場合、設定に必要な項目数は、電話機より少なく済みます。



(注)

回線グループで TAPI アプリケーションを使用する CTI ポートまたはデバイスを設定しないことをお勧めします。

H.323 クライアントおよびシェアドライン アピアランスの詳細については、P.16-3 の「シェアドライン アピアランス」を参照してください。

H.323 クライアントと CTI ポートの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」の項を参照してください。

Cisco IP Communicator

Cisco IP Communicator は、ユーザが PC を使用して電話コールを発信および受信できるソフトウェアベースのアプリケーションです。Cisco IP Communicator は、Cisco Unified Communications Manager のコール処理システムを利用して、テレフォニー機能と Voice-over-IP 機能を提供します。

このとき、Cisco IP Communicator は Cisco Unified Communications Manager と対話します。これは、Cisco IP Communicator が、デスクトップアプリケーションのポータビリティを実現しつつ、フル機能の Cisco Unified IP Phone と同じ機能を提供することを意味します。また、ユーザは Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、Cisco IP Communicator を電話機として管理することになります。

Cisco Unified Personal Communicator

Cisco Unified Personal Communicator は、音声、ビデオ、文書共有、およびプレゼンス アプリケーションへのアクセスのすべてを、単一のリッチメディア インターフェイスから提供するデスクトップソフトウェアアプリケーションです。Cisco Unified Personal Communicator は、Cisco Unified Communications Manager のコール処理システムを利用して、テレフォニー機能と Voice-over-IP 機能を提供します。

この Cisco Unified Communications Manager との相互対話により、Cisco Unified Personal Communicator は統合ソフトフォン機能を提供し、ユーザの物理 IP Phone を制御できます。また、ユーザは Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、Cisco Unified Personal Communicator を電話機として管理することになります。

Cisco TelePresence

Cisco TelePresence Meeting Solution は、エンドポイント、IP テレフォニー インフラストラクチャ テクノロジー、およびユーザ ソフトウェア アプリケーションで構成されるビジュアル会議室ソリューションです。「今そこに存在している」ような実物大の映像によるテレビ会議を実現します。Cisco TelePresence IP Phone はソリューションの不可欠な要素であり、他の Cisco TelePresence 会議室への接続を確立してコーデックを利用するためのユーザ インターフェイス、仮想的な会議空間を構築するためのプラズマ ディスプレイ スクリーン、マイクロフォン、スピーカ、カメラを管理するデバイスを提供します。Cisco TelePresence IP Phone は、Cisco Unified IP Phone 7970 の標準機能と Cisco TelePresence の会議接続機能の両方を提供します。たとえば、Cisco TelePresence IP Phone ユーザ インターフェイスには当日の会議スケジュールが表示され、テレビ会議接続を有効にして拡張するためのソフトキーが用意されています。これらのソフトキーは、映像によるテレビ会議が進行している間に使用すると、音声による会議参加者を追加することや、音声コールを発信することができます。

Cisco TelePresence の詳細については、次のシステム マニュアルおよび設定マニュアルを参照してください。

- *Cisco TelePresence System Administrator's Guide*
- *Cisco TelePresence Meeting User's Guide*
- *Cisco Unified Communications Manager and Cisco TelePresence Configuration*

コーデックの使用

Cisco Unified Communications Manager リリース 5.1(3) 以降では、Advertise G.722 Codec エンタープライズパラメータがサポートされています。このエンタープライズパラメータは、Cisco Unified IP Phone が G.722 コーデックを Cisco Unified Communications Manager にアダプタイズするかどうかを決定します。コーデックのネゴシエーションには 2 つのステップがあります。最初に、電話機がサポート対象コーデックを Cisco Unified Communications Manager にアダプタイズする必要があります (すべての電話機が同じコーデック群をサポートするわけではないため)。次に、コール試行に關与しているすべての電話機からサポート対象コーデックを取得した Cisco Unified Communications Manager が、リージョンペア設定を含むさまざまな要因に基づいて、共通してサポートされているコーデックを選択します。このパラメータは、Cisco Unified IP Phone 7941G、7941G-GE、7961G、7961G-GE、7970G、および 7971G-GE だけに適用されます。有効な値は、[Enabled] (指定された Cisco Unified IP Phone は G.722 を Cisco Unified Communications Manager にアダプタイズする) または [Disabled] (指定された Cisco Unified IP Phone は G.722 を Cisco Unified Communications Manager にアダプタイズしない) です。



(注)

Advertise G.722 Codec エンタープライズパラメータのデフォルトでは、クラスタ内のすべての電話機上で G.722 が使用可能になります。電話機の設定の Advertise G.722 Codec プロダクト固有パラメータのデフォルト値には、このエンタープライズパラメータの設定値によって指定されている値が使用されます。

パラメータ Advertise G.722 Codec は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域でサポートされています。個々の電話機単位でエンタープライズパラメータを上書きするには、このパラメータを使用します。

表 37-2 に、各設定値での電話機の対処を示します。

表 37-2 各設定値での電話機の対処

エンタープライズパラメータの設定値	電話機 (プロダクト固有) パラメータの設定値	電話機による G.722 のアダプタイズ
Advertise G.722 Codec に [Enabled] を設定	[Use System Default]	する
Advertise G.722 Codec に [Enabled] を設定	[Enabled]	する
Advertise G.722 Codec に [Enabled] を設定	[Disabled]	しない
Advertise G.722 Codec に [Disabled] を設定	[Use System Default]	しない
Advertise G.722 Codec に [Disabled] を設定	[Enabled]	する
Advertise G.722 Codec に [Disabled] を設定	[Disabled]	しない

Cisco Unified Communications Manager は、ワイドバンドコーデックの G.722 と、ワイドバンドという名前の専用コーデックをサポートします。どちらもワイドバンドコーデックの一種です。ナローバンド周波数応答が 300 Hz ~ 3.4 kHz であるのに対し、ワイドバンド周波数応答は 200 Hz ~ 7 kHz であるため、G.722 などのワイドバンドコーデックでは優れた音声品質が得られます。G.722 コーデックは、64 kbps で会議向けパフォーマンスと良好な音楽品質を提供します。

電話機のワイドバンド設定が有効になっている場合 (デフォルトでは無効)、ワイドバンドをサポートするヘッドセットを使用すると、音声感度の向上を感じられます。電話機のワイドバンドヘッドセットの設定にアクセスするには、[設定] アイコン > [ユーザ設定] > [オーディオ設定] > [ワイドバンドヘッドセット] の順に選択します。ユーザは、電話機システムが G.722 またはワイドバンドを使用するように設定されているかどうかをシステム管理者に確認する必要があります。システムにワイドバンドコーデック用の設定が行われていない場合は、ワイドバンドヘッドセットを使用しても音声感度の向上を感じることはできません。

次の Cisco Unified IP Phone (SCCP プロトコルと SIP プロトコルの両方) は、ワイドバンド ヘッドセットとともに使用するワイドバンド コーデック G.722 をサポートします。

- Cisco Unified IP Phone 7971G-GE
- Cisco Unified IP Phone 7970G
- Cisco Unified IP Phone 7961G-GE
- Cisco Unified IP Phone 7961G
- Cisco Unified IP Phone 7941G-GE
- Cisco Unified IP Phone 7941G

[リージョンの設定 (Region Configuration)] で G.711 コーデックまたは G.722 コーデックを選択すると、帯域利用率も選択したことになります。どちらのコーデックを選択しても同じ影響が生じます。G.711 または G.722 のいずれかを選択すると、G.722 ワイドバンド コーデックや Advanced Audio Codec (AAC) (AAC が 2 つ以上のチャンネルを使用する場合) など、64 kbps を超えるペイロードを持つコーデックを選択できなくなります。

G.711 または G.722 より低いリージョンを選択した場合は、システムが G.722、G.711、AAC、およびワイドバンドを許可しないため、Advertise G.722 Codec エンタープライズパラメータは無視されます。



ヒント

『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「システム レベルのコンフィギュレーション設定」の章および『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「リージョンの設定」の章の次の記述は無視してください。「Cisco Unified Communications Manager では、オーディオ コーデックの指定は、コールすべてに対してデフォルトで G.711 を使用しています。G.711 以外のオーディオ コーデックを使用する予定がない場合は、リージョンを使用する必要はありません」。G.711 と G.722 は同じ帯域幅を使用するため、Advertise G.722 Codec エンタープライズパラメータを [Disabled] に設定していない限り、システムは G.722 を使用します。



ヒント

Advertise G.722 Codec パラメータを有効にすると、コールパークおよびアドホック会議に関して相互運用性の問題が発生します。このエンタープライズパラメータをアドホック会議やコールパークなどの機能とともに使用する場合は、設定を [Disabled] に変更し、電話機のデバイスプールを更新してください。

このサービスパラメータが有効の場合、Cisco Unified IP Phone (7971、7970、7941、7961 など) は、同じリージョン内のコールの場合に G.722 コーデックのネゴシエーションを行い、使用することができます。

個々の電話機の制御および特定のコーデックタイプ (たとえば、G.711) の使用が必要な場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] を使用して各電話機のパラメータ Advertise G.722 Codec の設定を確認し、設定を [Disabled] に変更してください。その後、変更を保存し、デバイスをリセットしてください。



(注)

Advertise G.722 Codec エンタープライズパラメータが [Enabled] に設定されている場合、管理者は G.722 Codec Enabled サービスパラメータを使用してこの設定を上書きできます。このサービスパラメータは、Cisco Unified CallManager が G.722 ネゴシエーションをサポートしないか、一部のデバイスに対してサポートするか、またはすべてのデバイスに対してサポートするかを決定します。有効な値は、[Enabled for All Devices] (すべてのデバイスに対して G.722 をサポートする)、[Enabled for All Devices Except Recording-Enabled Devices] (コール記録が使用可能になっているデバイスを除くすべてのデバイスに対して G.722 をサポートする)、または [Disabled] (G.722 コーデックをサポートしない) です。

電話ボタン テンプレート

Cisco Unified Communications Manager には、デフォルトの電話ボタン テンプレートがいくつか組み込まれています。電話機を追加するときに、これらのテンプレートから 1 つを選んで電話機に割り当てることができます。または、テンプレートを新規に作成することもできます。

テンプレートを作成して使用すると、共通するボタン設定を大量の電話機に容易に割り当てることができます。たとえば、ある会社のユーザが使用していない会議機能を別の機能（たとえば、短縮ダイヤル）ボタンに割り当て直すテンプレートを作成することができます。

テンプレートを作成するには、既存のテンプレートのコピーを作成し、そのテンプレートに固有の名前を割り当てます。一度作成したカスタム テンプレートを変更できます。また、デフォルトの電話ボタン テンプレートのラベルを変更することもできます。しかし、デフォルトのボタン テンプレートの機能を変更することはできません。既存のテンプレートの名前を変更したり、既存のテンプレートを変更して新しいテンプレートを作成したりすることができます。また、カスタム テンプレートを更新して、機能、回線または短縮ダイヤルを、追加または削除することができます。使用しなくなったテンプレートを削除することもできます。テンプレートを更新すると、その変更は、そのテンプレートを使用するすべての電話機に反映されます。

テンプレート自体の名前を変更しても、そのテンプレートを使用している電話機に影響を与えることはありません。このテンプレートを使用するすべての Cisco Unified IP Phone は、テンプレートの名前が変更された後も、このテンプレートを引き続き使用します。

どの電話機にも、最低 1 回線が割り当てられていることを確認してください。通常、この割り当てにはボタン 1 が使用されます。Cisco Unified IP Phone のモデルによっては、電話機に回線を追加して割り当てることができます。また、電話機には、一般に短縮ダイヤルなどのいくつかの機能がありますが、この機能は残りのボタンに割り当てられます。

電話テンプレートを削除できるのは、その電話テンプレートが、システム内の電話機に現在割り当てられておらず、所定の電話機モデルに対して別のテンプレートがある場合です。デバイスに割り当てられているテンプレートを削除することはできません。また、[デバイスのデフォルト設定 (Device Defaults Configuration)] ウィンドウで指定されている見本のデフォルト テンプレートを削除することはできません。使用中のテンプレートを削除するには、そのテンプレートを使用しているすべての Cisco Unified IP Phone を別の電話ボタン テンプレートに割り当て直してから、そのテンプレートを削除します。



(注)

Cisco Unified IP Phone 拡張モジュール 7914 をサポートする Cisco Unified IP Phone 7960 の標準電話ボタン テンプレートには、両方のデバイスのボタン（最大 34 個）が含まれます。

[電話ボタン テンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] を選択して、特定のテンプレートを使用するデバイスを表示します。

Cisco Unified Communications Manager は、電話ボタン テンプレートを使用して Cisco Unified IP Phone のすべての機能を直接制御するわけではありません。個々の Cisco Unified IP Phone 7900 ファミリ モデルの詳細については、『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』およびその他の電話機資料を参照してください。

デフォルトの電話ボタン テンプレート

すべての Cisco Unified IP Phone は、ほぼ同等の機能をサポートしますが、モデルごとに、これらの機能の実装方法が異なっています。たとえば、保留や転送などの機能を、電話ボタン テンプレートを使用して設定しているモデルもあれば、他のモデルでは、設定することができないこれらの機能に対して、固定ボタンやオンスクリーン プログラム キーを備えています。また、サポートされている回線または短縮ダイヤルの最大数も、一部の電話機のモデルでは異なっています。こうした設定の違いがあるので、個々のモデルに対応する固有の電話ボタン テンプレートが必要になります。

各 Cisco Unified IP Phone モデルは、デフォルトの電話ボタン テンプレートを備えています。デフォルトのテンプレートをそのまま使用すると、簡単に電話機を設定できます。また、デフォルトのテンプレートをコピーし、変更を加えて、カスタム テンプレートを作成することも可能です。

カスタム テンプレートを使用すると、電話機の用途に応じて、一部またはすべての電話機で各種の機能を使用可能にしたり、特定の電話機に対して特定の機能を使用制限したり、一部またはすべての電話機に対して設定する回線数、または短縮ダイヤル数を変えたりすることができます。たとえば、会議室で使用される電話機に適用できるカスタム テンプレートを作成できます。表 37-3 に、標準の電話ボタン テンプレートを示します。

表 37-3 モデルごとのデフォルト電話ボタン テンプレート

電話ボタン テンプレートの名前	テンプレートの説明
Standard 7985	Standard 7985 テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用し、短縮ダイヤル用にボタン 3 ～ 8 を割り当てています。その他の電話機能（たとえば、コールパーク、コール転送、リダイヤル、保留、再開、ボイス メッセージ システム、会議など）を利用するには、Cisco IP Video Phone 7985 上のソフトキーを使用します。
Standard 7971 SCCP	Standard 7971 SCCP テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用し、短縮ダイヤル用にボタン 3 ～ 8 を割り当てています。その他の電話機能（たとえば、コールパーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、ボイス メッセージ システム、会議など）を利用するには、Cisco Unified IP Phone 7971 上のソフトキーを使用します。
Standard 7971 SIP	Standard 7971 SIP テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用し、短縮ダイヤル用にボタン 3 ～ 8 を割り当てています。その他の電話機能（たとえば、コールパーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、ボイス メッセージ システム、会議など）を利用するには、Cisco Unified IP Phone 7971 上のソフトキーを使用します。
Standard 7970 SCCP	Standard 7970 SCCP テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用し、短縮ダイヤル用にボタン 3 ～ 8 を割り当てています。その他の電話機能（たとえば、コールパーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、ボイス メッセージ システム、会議など）を利用するには、Cisco Unified IP Phone 7970 上のソフトキーを使用します。
Standard 7970 SIP	Standard 7970 SIP テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用し、短縮ダイヤル用にボタン 3 ～ 8 を割り当てています。その他の電話機能（たとえば、コールパーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、ボイス メッセージ システム、会議など）を利用するには、Cisco Unified IP Phone 7970 上のソフトキーを使用します。

表 37-3 モデルごとのデフォルト電話ボタン テンプレート (続き)

電話ボタン テンプレートの名前	テンプレートの説明
Standard 7961 SCCP および Standard 7961G-GE SCCP	Standard 7961 SCCP テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用し、ボタン 3 ～ 6 には短縮ダイヤル、回線、またはプライベートおよびサービス URL の機能を割り当てています。その他の電話機能 (たとえば、(固定) 短縮ダイヤル、コール パーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、コール バック、会議など) を利用するには、Cisco Unified IP Phone 7961 上のソフトキーを使用します。
Standard 7961 SIP	Standard 7961 SIP テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用し、ボタン 3 ～ 6 には短縮ダイヤル、回線、またはプライベートおよびサービス URL の機能を割り当てています。その他の電話機能 (たとえば、(固定) 短縮ダイヤル、コール パーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、コール バック、会議など) を利用するには、Cisco Unified IP Phone 7961 上のソフトキーを使用します。
Standard 7960 SCCP	Standard 7960 SCCP テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用し、ボタン 3 ～ 6 には短縮ダイヤル、回線、またはプライベートおよびサービス URL の機能を割り当てています。その他の電話機能 (たとえば、(固定) 短縮ダイヤル、コール パーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、コール バック、会議など) を利用するには、Cisco Unified IP Phone 7960 上のソフトキーを使用します。
Standard 7960 SIP	Standard 7960 SIP テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用し、ボタン 3 ～ 6 には短縮ダイヤル、回線、またはプライベートおよびサービス URL の機能を割り当てています。その他の電話機能 (たとえば、(固定) 短縮ダイヤル、コール パーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、コール バック、会議など) を利用するには、Cisco Unified IP Phone 7960 上のソフトキーを使用します。
Standard 7941 SCCP および Standard 7941G-GE SCCP	Standard 7941 SCCP テンプレートは、1 回線用の事前設定済み電話ボタンテンプレートを備えています (回線 1 にはボタン 1、短縮ダイヤルにはボタン 2)。電話機能 (たとえば、(固定) 短縮ダイヤル、コール パーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、コール バック、会議など) を利用するには、Cisco Unified IP Phone 7941 上のソフトキーを使用します。
Standard 7941 SIP	Standard 7941 SIP テンプレートは、1 回線用の事前設定済み電話ボタンテンプレートを備えています (回線 1 にはボタン 1、短縮ダイヤルにはボタン 2)。電話機能 (たとえば、(固定) 短縮ダイヤル、コール パーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、コール バック、会議など) を利用するには、Cisco Unified IP Phone 7941 上のソフトキーを使用します。
Standard 7940 SCCP	Standard 7940 SCCP テンプレートは、1 回線用の事前設定済み電話ボタンテンプレートを備えています (回線 1 にはボタン 1、短縮ダイヤルにはボタン 2)。電話機能 (たとえば、(固定) 短縮ダイヤル、コール パーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、コール バック、会議など) を利用するには、Cisco Unified IP Phone 7940 上のソフトキーを使用します。

表 37-3 モデルごとのデフォルト電話ボタン テンプレート (続き)

電話ボタン テンプレートの名前	テンプレートの説明
Standard 7940 SIP	Standard 7940 SIP テンプレートは、1 回線用の事前設定済み電話ボタン テンプレートを備えています (回線 1 にはボタン 1、短縮ダイヤルにはボタン 2)。電話機能 (たとえば、(固定) 短縮ダイヤル、コール パーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、コールバック、会議など) を利用するには、Cisco Unified IP Phone 7940 上のソフトキーを使用します。
Standard 7931 SCCP	Standard 7931 SCCP テンプレートでは、回線 1 にボタン 1 を使用します。
Standard 7920	Standard 7920 テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用し、短縮ダイヤル用にボタン 3 ~ 6 を割り当てています。
Standard 7912 SCCP	Standard 7912 SCCP テンプレートでは、回線 1 にボタン 1、短縮ダイヤルにボタン 2 ~ 5、保留にボタン 6、設定にボタン 7 を使用します。
Standard 7912 SIP	Standard 7912 SIP テンプレートでは、回線 1 にボタン 1、短縮ダイヤルにボタン 2 ~ 5、保留にボタン 6、設定にボタン 7 を使用します。
Standard 7911 SCCP	Standard 7911 SCCP テンプレートでは、回線 1 にボタン 1 を使用し、ボタン 2 を [プライバシー] ソフトキーとして設定可能 (デフォルトでは [None]) にして、短縮ダイヤル用にボタン 3 ~ 6 を割り当てています。ユーザは、電話機の [ディレクトリ] メニューまたはナビゲーション ボタンから短縮ダイヤルにアクセスします。
Standard 7911 SIP	Standard 7911 SIP テンプレートでは、回線 1 にボタン 1 を使用し、ボタン 2 を [プライバシー] ソフトキーとして設定可能 (デフォルトでは [None]) にして、短縮ダイヤル用にボタン 3 ~ 6 を割り当てています。ユーザは、電話機の [ディレクトリ] メニューまたはナビゲーション ボタンから短縮ダイヤルにアクセスします。
Standard 7910	Standard 7910 テンプレートでは、メッセージの受信にボタン 1、会議にボタン 2、自動転送にボタン 3、短縮ダイヤルにボタン 4 と 5、リダイヤルにボタン 6 を使用します。 Cisco Unified IP Phone 7910 には、回線、保留、転送、および設定用の固定ボタンがあります。
Standard 7906 SCCP	Standard 7906 SCCP テンプレートでは、回線 1 にボタン 1 を使用し、ボタン 2 を [プライバシー] ソフトキーとして設定可能 (デフォルトでは [None]) にして、短縮ダイヤル用にボタン 3 ~ 6 を割り当てています。ユーザは、電話機の [ディレクトリ] メニューまたはナビゲーション ボタンから短縮ダイヤルにアクセスします。
Standard 7906 SIP	Standard 7906 SIP テンプレートでは、回線 1 にボタン 1 を使用し、ボタン 2 を [プライバシー] ソフトキーとして設定可能 (デフォルトでは [None]) にして、短縮ダイヤル用にボタン 3 ~ 6 を割り当てています。ユーザは、電話機の [ディレクトリ] メニューまたはナビゲーション ボタンから短縮ダイヤルにアクセスします。
Standard 7905 SCCP	Standard 7905 SCCP テンプレートでは、回線 1 にボタン 1、短縮ダイヤルにボタン 2 ~ 5、保留にボタン 6、設定にボタン 7 を使用します。
Standard 7905 SIP	Standard 7905 SIP テンプレートでは、回線 1 にボタン 1、短縮ダイヤルにボタン 2 ~ 5、保留にボタン 6、設定にボタン 7 を使用します。

表 37-3 モデルごとのデフォルト電話ボタン テンプレート (続き)


電話ボタン テンプレートの名前	テンプレートの説明
Standard 7902	Standard 7902 テンプレートでは、回線 1 にボタン 1、短縮ダイヤルにボタン 2～5、保留にボタン 6、設定にボタン 7 を使用します。
Standard 7936	Cisco Unified IP Conference Station 7936 用の Standard 7936 テンプレートは、回線 1 にボタン 1 を使用します (設定不可)。
Standard 7935	Cisco IP Conference Station 7935 用の Standard 7935 テンプレートは、回線 1 にボタン 1 を使用します (設定不可)。
Standard 30 SP+	Standard 30 SP+ テンプレートでは、回線にボタン 1～4、コールパークにボタン 5 を使用し、ボタン 6～8 と 17～21 は未定義で、短縮ダイヤルにボタン 9～13 と 22～25 を使用します。また、メッセージ受信のインジケータにボタン 14、自動転送にボタン 15、会議にボタン 16 を使用します。  (注) Cisco IP Phone 30 SP+ の場合のみ、ボタン 26 を Automatic Echo Cancellation (AEC) に割り当ててください。
Standard 30 VIP	Standard 30 VIP テンプレートでは、回線にボタン 1～4、コールパークにボタン 5、短縮ダイヤルにボタン 6～13 と 22～26 を使用します。また、メッセージ受信のインジケータにボタン 14、自動転送にボタン 15、会議にボタン 16 を使用します。
Standard 12 シリーズ (12 S、12 SP、および 12 SP+ を含む)	Standard 12 S、Standard 12 SP、および Standard 12 SP+ テンプレートでは、回線にボタン 1 と 2、リダイヤルにボタン 3、短縮ダイヤルにボタン 4～6、保留にボタン 7 を使用します。また、任意転送にボタン 8、自動転送にボタン 9、コールパークにボタン 10、メッセージの受信にボタン 11、会議にボタン 12 を使用します。
Standard VGC Phone	Cisco VG248 ゲートウェイ用の Standard VGC Phone テンプレートでは、回線にボタン 1、短縮ダイヤルにボタン 2～10 を使用します。
Default VGC Virtual Phone	Cisco VGC Virtual Phone 用の Default VGC Virtual Phone テンプレートでは、回線 1 にボタン 1 を使用します。
Standard ATA 186	Standard ATA 186 テンプレートでは、回線にボタン 1、短縮ダイヤルにボタン 2～10 を使用します。
ISDN BRI Phone	ISDN BRI Phone テンプレートでは、回線 1 にボタン 1 を使用します。
Standard CIPC SCCP	Standard CIPC (Cisco IP Communicator) テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用し、短縮ダイヤル用にボタン 3～8 を割り当てています。その他の電話機能 (たとえば、コールパーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、ボイス メッセージ システム、会議など) を利用するには、(電話機にソフトキー テンプレートを設定して) ソフトキーを使用します。
Standard CIPC SIP	Standard CIPC SIP テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用し、短縮ダイヤル用にボタン 3～8 を割り当てています。その他の電話機能 (たとえば、コールパーク、自動転送、リダイヤル、保留、再開、ボイス メッセージ システム、会議など) を利用するには、(電話機にソフトキー テンプレートを設定して) ソフトキーを使用します。

表 37-3 モデルごとのデフォルト電話ボタン テンプレート (続き)

電話ボタン テンプレートの名前	テンプレートの説明
Standard IP-STE	Standard IP-STE テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用します。
Standard Unified Communicator SIP	Standard Unified Communicator SIP テンプレートでは、回線 1 にボタン 1 を使用します。
Standard Analog	アナログ電話機用の Standard Analog テンプレートでは、回線 1 にボタン 1 を使用します。
Third-Party SIP Device (Advanced)	サードパーティの SIP 電話機用に使用される Generic SIP Phone - 2 Lines テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用します。
Third-Party SIP Device (Basic)	サードパーティの SIP 電話機用に使用される Generic SIP Phone - 2 Lines テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用します。
Standard Cisco TelePresence	Cisco TelePresence で必要になる Standard Cisco TelePresence テンプレートでは、回線用にボタン 1 と 2 を使用し、短縮ダイヤル用にボタン 3 ~ 42 を使用します。

電話ボタン テンプレートのカスタマイズのガイドライン

カスタム電話ボタン テンプレートを作成する際は、次のガイドラインに従ってください。

- 電話機のユーザが、カスタム テンプレートの最も基本的な機能を説明するクイック リファレンス カード、またはスタート アップ ガイドを受け取っていることを確認する。社員が使用するカスタム テンプレートを作成する場合は、そのテンプレートに次の機能が含まれていることを確認してください。また、ユーザ用に作成するクイック リファレンス カードにも、これらの機能の説明を記載してください。
 - Cisco Unified IP Phone 7970/71、7960/61、7940/41、7911、7906 : 回線 (1 つ以上)
 - Cisco Unified IP Phone 7931 : 回線
 - Cisco Unified IP Phone 7912 : 回線、短縮ダイヤル、保留、および設定
 - Cisco Unified IP Phone 7910 : すべてのコールの転送
 - Cisco Unified IP Phone 7905 および 7902 : 回線、短縮ダイヤル、保留、および設定
 - Cisco Wireless IP Phone 7920 : 回線 (1 つ以上)
 - Cisco IP Phone 12 SP+ : 回線 (1 つ以上)、保留、コール パーク、およびすべてのコールの転送
 - Cisco IP Phone 30 VIP : 回線 (1 つ以上)、コール パーク、およびすべてのコールの転送
 - Cisco VGC Virtual Phone および Cisco ATA 186 : 回線および短縮ダイヤル
- 電話ボタン テンプレートをどのように設定するかは、各機能の特性を考慮し決定する。短縮ダイヤルと回線に複数のボタンを割り当てることができます。ただし通常必要なボタンは、表 37-4 で説明されている電話ボタン機能のうち 1 つだけです。

表 37-4 電話ボタン機能の説明



機能	説明
AEC	Cisco IP Phone 30 VIP 用のテンプレートを設定する場合は、この機能を 1 つ選択し、それをボタン 26 に割り当てる必要があります。Auto Echo Cancellation (AEC) は、発信側がスピーカフォンを使用するときに、着信側が受信するフィードバックの量を減らします。ユーザは、スピーカフォンの使用時に、Cisco IP Phone 30 SP+ 上の AEC ボタンを押す必要があります。スピーカフォンを使用していないときは、ユーザはこのボタンを押す必要はありません。この機能が作動するために必要な設定はありません。
応答 / 解除	ユーザがヘッドセット上のボタンを押すと、ヘッドセット機器と連動して、コールの応答と解除（接続解除）ができます。
自動応答	この機能がテンプレート上でプログラムされる場合、このボタンを押すと、着信コールの受信時にスピーカフォンが自動的にオフフックとなります。  (注) この機能を設定するには、電話機のモデルに応じて、[電話ボタン テンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウを使用する場合と [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用場合があります。
コール パーク	ユーザがこのボタンを押すと、コール パーク番号またはその番号の範囲と連動して、コールが電話番号に保留され、後で取り出せます。このボタンを機能させるには、システム内でコール パーク番号またはその番号の範囲を設定する必要があります。コール パーク番号またはその番号の範囲をユーザに提供し、ユーザがその番号をダイヤルして、コールを取り出せるようにします。
コール パーク BLF	ユーザは、ダイレクト コール パーク番号のビジー/アイドルステータスをコール パーク Busy Lamp Field (BLF) を使用して監視できます。また、ユーザは BLF ボタンを押してこれらの番号を短縮ダイヤルすることもできます。ダイレクト コール パーク番号は、コール パーク BLF ボタンごとに 1 つずつ設定します。コール パーク BLF ボタンを使用してコールを正常にパークおよび取得するには、デバイスのパーティションとコーリング サーチ スペースが正しく設定されている必要があります。  (注) このボタンは、標準のコール パーク機能（保留機能）ではなくダイレクト コール パーク機能（転送機能）で使用します。
会議	ユーザが会議ボタンを押すと、アドホック会議を開始し、参加者を追加することができます（ユーザは [参加] ソフトキーを使用して、アドホック会議を開始することもできます）。 会議ボタンが必要なのは、アドホック会議を開始するユーザだけです。このボタンが機能するためには、アドホック会議ブリッジデバイスが Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定されている必要があります。詳細については、「 会議ブリッジ 」の章を参照してください。

表 37-4 電話ボタン機能の説明 (続き)

機能	説明
すべてのコールの転送	ユーザは、このボタンを押して、指定した電話番号にすべてのコールを転送します。ユーザが、Cisco Unified IP Phone の設定ウィンドウで不在転送を指定するか、管理者が、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでユーザごとに不在転送番号を指定できません。
保留	ユーザは、このボタンを押して、アクティブ コールを保留にします。コールの保留を解除するには、ユーザが、その保留コール用の点滅する回線のボタンを押すか、受話器を持ち上げて、点滅する回線のボタンを押します。保留中の発信者には、保留状況を示すトーンが 10 秒ごとに聞こえます。または (保留音機能が設定されている場合) 音楽が聞こえます。保留トーン機能を作動させるために必要な設定はありません。
回線	ユーザは、このボタンを押して番号をダイヤルするか、着信コールに応答します。このボタンを機能させるには、管理者がユーザの電話機上に電話番号を追加しておく必要があります。
ミーティング会議	ユーザは、このボタンを押してミーティング会議を開始し、会議への参加を要請した他のユーザがその会議にダイヤルするのを待ちます。ミーティング ボタンが必要なのは、ミーティング会議を開始するユーザだけです。このボタンを機能させるには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでミーティング会議デバイスを設定しておく必要があります。
メッセージ受信	ユーザはこのボタンを押して、ボイス メッセージ システムに接続します。
なし	ボタンに何も割り当てない場合は、なしを使用します。
リダイヤル	このボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone で最後にダイヤルされた番号を再度ダイヤルします。この機能を作動させるために必要な設定はありません。
プライバシー	このボタンを押すと、プライバシーを有効/無効にします。
サービス URL	このボタンを押すと、個人ファーストダイヤル、株価情報、または気象情報などの Cisco Unified IP Phone サービスにアクセスします。
短縮ダイヤル	このボタンを押すと、指定された番号を短縮ダイヤルします。システム管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで短縮ダイヤル番号を指定できます。ユーザは、Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプション メニューで短縮ダイヤル番号を指定できます。
BLF 短縮ダイヤル	ユーザは、プレゼンス機能をサポートするデバイス上の関連する電話番号または SIP URI の状態を、このボタンでリアルタイムで監視します。このボタンを押すと、宛先にダイヤルできます。
転送	このボタンを押すと、別の電話番号にアクティブ コールを転送します。この機能を作動させるために必要な設定はありません。

プログラム可能な回線キー

Cisco Unified IP Phone は、回線ボタン（ディスプレイの右側にあるボタン）をサポートしています。このボタンを使用すると、特定の回線上でコールを開始、応答、または切り替えることができます。短縮ダイヤル、エクステンション モビリティ、プライバシー、BLF 短縮ダイヤル、DND、サービス URL など、限られた数の機能をこれらのボタンに割り当てることができます。

プログラム可能な回線キー（PLK; Programmable Line Key）機能は、回線ボタンに割り当てることのできる機能のリストを拡張して、通常はソフトキーで制御する機能を含めることができます。たとえば、[発信]、[コールバック]、[終了]、[不在転送] などです。これらの機能を回線ボタンに設定すると、その機能は常に表示されるようになり、「ハードウェア」の [発信] キーなどとして利用できます。

プログラム可能な回線キーでは、27 種類の機能を回線ボタンに割り当てることができます（表 37-5 を参照）。プログラム可能な回線キーを割り当てるには、[電話ボタンテンプレートの設定（Phone Button Template Configuration）] ウィンドウを使用します。このウィンドウでは、電話機のモデルに応じた適切な（設定可能な）機能が表示されます。電話ボタンテンプレートを設定した後は、その電話ボタンテンプレートを [電話の設定（Phone Configuration）] を使用して電話機に割り当てる必要があります（リセットを要求されます）。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定」および「電話ボタンテンプレートのボタン項目の変更」の項を参照してください。

表 37-5 Cisco Unified IP Phone のプログラム可能な回線キー

機能	電話モデル 7971、7970、7961、7941、7914（SCCP のみ）	電話モデル 7931（SCCP のみ）
リダイヤル	設定可	設定不可、既存の回線ボタンを使用
保留	設定可	設定不可、既存の回線ボタンを使用
転送	設定可	設定不可、既存の回線ボタンを使用
プライバシー	設定可	設定可
不在転送	設定可	設定可
ミーティング	設定可	設定可
会議	設定可	設定可
パーク	設定可	設定可
ピックアップ	設定可	設定可
グループ コール ピックアップ	設定可	設定可
迷惑呼 ID（MCID）	設定可	設定可
会議リスト	設定可	設定可
最後の参加者の削除	設定可	設定可
QRT	設定可	設定可
コールバック	設定可	設定可
他グループのコール ピックアップ	設定可	設定可
ビデオ モード	設定可	設定可
発信	設定可	設定可
終了	設定可	設定可

表 37-5 Cisco Unified IP Phone のプログラム可能な回線キー（続き）

機能	電話モデル 7971、7970、7961、7941、7914（SCCP のみ）	電話モデル 7931（SCCP のみ）
ハント（ハント グループ）	設定可	設定可
モビリティ	設定可	設定可
設定	設定不可、既存のボタンを使用	設定可
情報	設定不可、既存のボタンを使用	設定不可
サービス	設定不可、既存のボタンを使用	設定可
メッセージ	設定不可、既存のボタンを使用	設定可
ディレクトリ	設定不可、既存のボタンを使用	設定可
アプリケーション メニュー	設定不可、既存のボタンを使用	設定可
ヘッドセット	設定不可、既存のボタンを使用	設定可

プログラム可能な回線キーは、既存のソフトキー機能には影響しません。ソフトキーは、引き続き必要に応じて表示され、電話機の状態（発信中、通話中、[サービス] メニューの操作中など）に対応して変化します。

機能がすでにプログラム可能な回線キーに割り当てられている場合でも、そのキーはソフトキーとして表示されることがあります。また、機能がすでにソフトキーに割り当てられている場合でも、そのキーはプログラム可能な回線キーとして表示されることがあります。

電話機が、ある機能の固定ボタンを備えている場合、その機能をプログラム可能な回線キーに割り当てることはできません。たとえば、Cisco Unified IP Phone 7931 は転送のための専用の固定ボタンを備えているため、転送機能をプログラム可能な回線キーに割り当てることはできません。

ソフトキー テンプレート

Cisco Unified IP Phone 上で、Cisco Unified Communications Manager Assistant などのアプリケーション、または Cisco Call Back などのコール処理機能に関連付けられているソフトキーを管理するには、ソフトキー テンプレートを使用します。管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウを使用して、ソフトキー テンプレートを作成および更新します。

Cisco Unified Communications Manager は、標準と非標準の 2 つのタイプのソフトキー テンプレートをサポートしています。Cisco Unified Communications Manager データベース内の標準のソフトキー テンプレートには、アプリケーション ソフトキーの推奨される選択および位置付けが含まれています。Cisco Unified Communications Manager は、次の標準ソフトキー テンプレートを提供します。

- Standard User
- Standard Feature
- Standard Assistant
- Standard Shared Mode Manager
- Standard Manager



(注)

デフォルトのプロセスでは、ソフトキー テンプレートを Cisco Unified IP Phone に割り当てません。管理者は、テンプレートをそれぞれ電話機に割り当てるか、共通デバイス設定を各電話機に割り当てて、標準または非標準のソフトキー テンプレートを Cisco Unified IP Phone に割り当てる必要があります。

管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウを使用して、非標準のソフトキー テンプレートを作成します。非標準のソフトキー テンプレートを作成するには、標準のソフトキー テンプレートをコピーして、変更を加えます。管理者は、どの非標準のソフトキー テンプレートに対しても、関連付けるアプリケーションを追加したり、関連付けられているアプリケーションを削除したりできます。さらに、非標準のソフトキー テンプレートに、各コール状態用のソフトキー セットを設定できます。

[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウには、標準および非標準のソフトキー テンプレートが一覧表示されます。このウィンドウでは、異なるアイコンを使用して、標準のテンプレートと非標準のテンプレートが区別されています。

管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで次の設定ウィンドウを使用して、ソフトキー テンプレートを割り当てます。

- [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]
- [電話の設定 (Phone Configuration)] (SIP および SCCP)
- [UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)]
- [デフォルトのデバイス プロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)]

アプリケーションの追加

管理者は、Cisco アプリケーションに関連付けられている標準のソフトキー テンプレートを、非標準のソフトキー テンプレートに追加できます。[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウから [アプリケーションを追加] ボタンをクリックすると、別のウィンドウが表示されます。このウィンドウで、非標準のソフトキー テンプレートの末尾に追加する標準のソフトキー テンプレートを選択できます。重複するソフトキーは、ソフトキー セットの末尾から順に削除されます。



ヒント

非標準のソフトキー テンプレートでアプリケーションのソフトキーをリフレッシュするには、すでにその非標準のソフトキー テンプレートに関連付けられている標準のソフトキー テンプレートを選択します。たとえば、管理者が当初 Standard User テンプレートをコピーしていくつかのボタンを削除した場合は、[アプリケーションを追加] ボタンをクリックして、Standard User ソフトキー テンプレートを選択します。この結果、選択したソフトキー テンプレートに含まれているボタンが追加されます。

どのコール状態でも、ソフトキーの最大数は 16 です。ソフトキーの最大数に達すると、メッセージが表示され、アプリケーション追加手順が停止します。管理者は、テンプレートに別のアプリケーションを追加する前に、コール状態からいくつかのソフトキーを手動で削除する必要があります。

[アプリケーションを削除] ボタンを使用して、非標準のソフトキー テンプレートに関連付けられているアプリケーション ソフトキー テンプレートを削除できます。選択したアプリケーションに関連付けられているソフトキーだけが削除されます。アプリケーション間で共有されているソフトキーは、そのソフトキーを共有するアプリケーションがソフトキー テンプレートからすべて削除されるまで、ソフトキー テンプレートに残ります。

ソフトキー レイアウトの設定

管理者は、非標準のソフトキー テンプレートに、各コール状態用のソフトキー セットを設定できます。管理者が [ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウで [関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [ソフトキー レイアウトの設定] を選択し、[移動] をクリックすると、[ソフトキー レイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] が表示されます。

[ソフトキー レイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ペインには、次のフィールドがあります。

- [コール ステートの選択 (Select a call state to configure)] : このドロップダウン リスト ボックスには、Cisco Unified IP Phone のさまざまなコール状態が表示されます。コール状態の追加、更新、削除を行うことはできません。ドロップダウン リスト ボックスからコール状態を選択すると、そのコール状態で使用可能なソフトキーが示されます。表 37-6 にコール状態の一覧を示します。

表 37-6 コール状態

コール状態	説明
Connected	コールが接続されている場合に表示
Connected Conference	接続コール状態での会議のコンサルテーション コール
Connected Transfer	接続コール状態での転送のコンサルテーション コール
Digits After First	ユーザが最初の数字を入力した後のオフフック コール状態
Off Hook	電話機にダイヤル トーンが提供されている状態
Off Hook With Feature	転送または会議のコンサルテーション コールのオフフック コール状態
On Hold	保留のコール
On Hook	その電話機にコールがない状態
Remote In Use	同じ回線を共有する別のデバイスがコールを使用している状態
Ring In	コールを受信し、呼び出し音が鳴っている状態
Ring Out	コールが開始され、宛先の呼び出し音が鳴っている状態

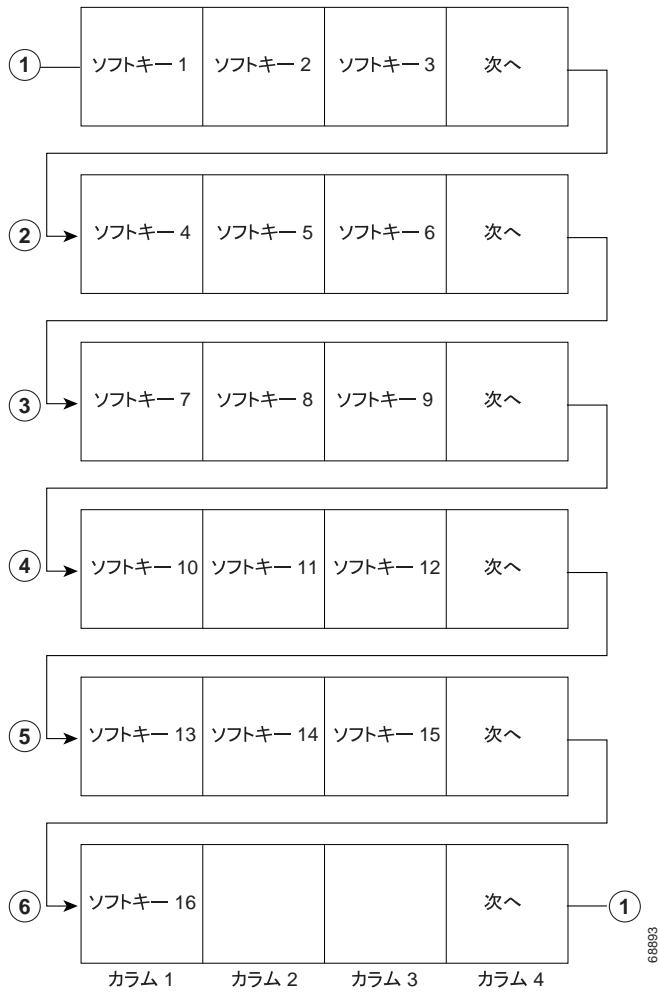
- [選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)] : コール状態に関連付けられているソフトキーを一覧表示します。[コール ステートの選択 (Select a call state to configure)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されているコール状態の、選択されていないオプション ソフトキーがこのフィールドに一覧表示されます。このフィールド内のソフトキーを、[選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] フィールドに追加するには、右矢印を使用します。[選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] のリストに、[Undefined] ソフトキーを複数回追加できます。[Undefined] を選択すると、Cisco Unified IP Phone に空白のソフトキーが表示されます。
- [選択されたソフトキー (Selected Softkeys、位置順)] : 選択されているコール状態に関連付けられているソフトキーを一覧表示します。[コール ステートの選択 (Select a call state to configure)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されているコール状態の、選択されているソフトキーがこのフィールドに一覧表示されます。このフィールドに指定できるソフトキーの最大数は、16 です。サンプルのソフトキーのレイアウトについては、[図 37-1](#) を参照してください。



(注)

コール状態ごとにソフトキーの位置を変えないことをお勧めします。一貫性が保たれ、ユーザの操作性が向上します。たとえば、各コール状態で、[次へ] ソフトキーを必ず左から 4 番目の位置に置くようにします。

図 37-1 サンプルのソフトキー レイアウト



ソフトキー テンプレートの動作

Cisco Unified Communications Manager Assistant などのアプリケーションがソフトキーをサポートするためには、そのアプリケーションを使用するデバイスごとに、データベース内にソフトキーおよびソフトキー セットが設定されている必要があります。

どのソフトキー テンプレートでも、アプリケーション ソフトキーとコール処理ソフトキーを混在させることができます。スタティック ソフトキー テンプレートは、データベース内でデバイスと関連付けられます。デバイスが Cisco Unified Communications Manager に登録されると、スタティック ソフトキー テンプレートがデータベースからコール処理に読み込まれ、デバイスに渡されて、セッションの間中（デバイスが登録解除されるかリセットされるまで）使用されます。デバイスがリセットされた場合は、管理者が行う更新によって、別のソフトキー テンプレートまたはソフトキー レイアウトが適用されることがあります。

ソフトキーは、アプリケーション ID と呼ばれるフィールドをサポートしています。Cisco Unified Communications Manager Assistant などのアプリケーションは、Cisco CTIManager およびコール処理を介して、特定のアプリケーション ID とともにデバイスに要求を送信することにより、アプリケーション ソフトキーを有効または無効にします。

ユーザが Cisco IP Manager Assistant サービスにログインしてサービスのアシスタントを選択すると、アプリケーションは Cisco CTIManager およびコール処理を介してデバイスに要求を送信し、そのアプリケーション ID を持つすべてのアプリケーション ソフトキーを有効にします。

いつでも、Cisco Unified IP Phone に複数のソフトキー セットを表示できます（コールごとに 1 つのソフトキー セット）。

データベース内でデバイス（Cisco Unified IP Phone など）に関連付けられているソフトキー テンプレートは、デバイスがコール処理に登録するとき使用されるものです。ソフトキー テンプレートとデバイスの関連付けは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] を使用して行います。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」を参照してください。

共通電話機プロフィール

Cisco Unified Communications Manager は共通電話機プロフィールを使用して、Cisco Unified IP Phone に関連付けられている電話機の属性を定義します。これらの属性を、すべての電話機に個別に追加することなく、プロフィールの中に入れておくと、管理者は電話機の設定に費やす時間を減らすことができ、電話機グループの値を変更できるようになります。共通電話機プロフィールでは、次の属性を指定します。

- プロファイル名
- プロファイルの説明
- ローカル電話機のロック解除パスワード
- DND オプション
- DND 着信呼警告
- 電話機のパーソナライゼーション
- 電話機の背景イメージ設定へのエンド ユーザ アクセス

共通電話機プロフィールは、電話機を設定する場合に必須フィールドになります。したがって、電話機を作成する前に、共通電話機プロフィールを作成する必要があります。Cisco Unified Communications Manager に用意されている Standard Common Phone Profile をコピーして修正し、新しい共通電話機プロフィールを作成することもできます。ただし、Standard Common Phone Profile そのものは修正も削除もできません。

共通電話機プロフィールの設定方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「共通電話プロフィールの設定」を参照してください。

電話機を追加する方法

Cisco Unified Communications Manager データベースに、SCCP または SIP プロトコルをサポートする電話機を追加する方法には、自動登録を使用した自動的な追加、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用した手動による追加、または一括管理ツール (BAT) を使用したグループ単位の追加があります。

電話機をインストールする前に、自動登録を使用可能にしておく、IP テレフォニー ネットワークに Cisco Unified IP Phone を接続するときに、その IP Phone を Cisco Unified Communications Manager データベースに自動的に追加できます。自動登録を使用可能にする方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「自動登録の使用可能化」を参照してください。自動登録時に、Cisco Unified Communications Manager は、次に使用可能な電話番号を順に電話機に割り当てます。しかし、自動登録を使用したくない場合もあります。たとえば、特定の電話番号を電話機に割り当てたい場合、または『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』で説明されているように、認証または暗号化を実装する場合などです。



ヒント

Cisco CTL クライアントを介した認証および暗号化についてクラスタ全体にセキュリティ モードを設定すると、Cisco Unified Communications Manager は自動的に自動登録を使用不可にします。

自動登録を使用しない場合は、手動で Cisco Unified Communications Manager データベースに電話機を追加するか、一括管理ツール (BAT) を使用する必要があります。BAT を使用すると、システム管理者は、大量の Cisco Unified IP Phone に対して追加、変更、および削除の操作を一括で実行できます。BAT の使用方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

ユーザ / 電話機の追加

[エンドユーザ、電話、DN、および LA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウを使用すると、新しいエンド ユーザを追加するときに、同時に新しい電話機を追加できます。その同じウィンドウを使用して、新しいエンド ユーザの電話番号 (DN) およびラインアピラン ス (LA) を関連付けることができます。[エンドユーザ、電話、DN、および LA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウにアクセスするには、[ユーザ管理] > [ユーザ / 電話の追加] メニュー オプションを選択します。設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ユーザ / 電話機の追加の設定」を参照してください。



(注)

[エンドユーザ、電話、DN、および LA の設定 (End User, Phone, DN, and LA Configuration)] ウィンドウでは、新しいエンド ユーザと新しい電話機の追加だけができます。既存のエンド ユーザまたは既存の電話機を入力することはできません。

電話機能

Cisco Unified Communications Manager を使用すると、割り込み、プライバシー解除、コールバック、コールパーク、コールピックアップ、即時転送、回線をまたいで参加、迷惑呼 ID、Quality Report Tool、サービス URL、ワンボタン割り込み / C 割り込み、短縮ダイヤル（ボタン）、短縮ダイヤル（ソフトキー）などの電話機能を Cisco Unified IP Phone に設定できます。

電話番号に関連する機能については、P.16-7 の「電話番号の機能」を参照してください。電話番号に対しては、自動転送機能とコール ウェイティング機能が設定されます。

オーディオ メッセージ受信インジケータ (AMWI)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで Audible Message Waiting Indicator Policy サービスパラメータを設定すると、開封待ちの音声メッセージがあるときにエンドユーザが（音声メッセージが残された回線の）電話機をオフフックにした場合、スタッター ダイヤル トーンが受信されるように Cisco Unified IP Phone を設定できます。



(注)

下位互換性を維持するため、SCCP を実行している Cisco Unified IP Phone は、SCCP ファームウェアのバージョンが 10 より前の電話機には AMWI スタッター ダイヤル トーンを発行しません。これは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページのウィンドウで AMWI が設定されているかどうかとは関係ありません。

割り込みおよびプライバシー

割り込みおよびプライバシーの機能は、連携して動作します。いずれの機能も、SCCP および SIP 電話機でシェアラインだけを使用して機能します。

割り込みは、進行中のコールにユーザを追加します。[割り込み] または [C 割込] ソフトキーを押すと、ユーザ（発信側）は、自動的にシェアライン コール（ターゲット）に追加されます。現在コール中のユーザにはトーンが聞こえます

プライバシーを使用すると、ユーザは回線を共有したデバイスの他のユーザがデバイス コール情報を表示することを許可または禁止したり、別のユーザがアクティブ コールに割り込むことを許可したりすることができます。

割り込みおよびプライバシーの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。

自動転送

自動転送を使用すると、ユーザは、Cisco Unified IP Phone に着信するすべてのコールが、別の電話機で呼び出し音を鳴らすように設定できます。自動転送には、次の種類があります。

- Call forward all : すべてのコールを転送する。
- Call forward busy : 回線が使用中で、ビジー トリガー設定値に到達した場合にだけ、コールを転送する。
- Call forward no answer : 設定されている無応答呼び出し時間が経過した後に電話機が応答しない場合、または宛先が登録されていない場合に、コールを転送する。
- Call forward no coverage : 呼び出しが実行し尽くされたかタイムアウトし、関連するカバレッジ用のハントパイロットが最終転送に [個人の初期設定を使用 (Use Personal Preferences)] を指定している場合に、コールを転送する。

コーリング サーチ スペースを設定することで、各自動転送タイプを、内部および外部のコールに設定でき、コールを音声メッセージシステムまたはダイヤル先番号へ転送できます。

Cisco Unified Communications Manager は、[不在転送の二次コーリング サーチ スペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)] 設定フィールドを含んでいます。[不在転送の二次コーリング サーチ スペース] は既存の [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] と組み合わされて、代替 CSS システム設定のサポートを可能にします。不在転送がアクティブにされると、[コーリング サーチ スペース] および [不在転送の二次コーリング サーチ スペース] だけを使用して不在転送の宛先の妥当性が検査され、コールが不在転送の宛先へリダイレクトされます。これらのフィールドが空の場合、ヌル CSS が使用されます。不在転送の [コーリング サーチ スペース] フィールドと [不在転送の二次コーリング サーチ スペース] フィールドで設定された CSS フィールドだけが使用されます。電話機から不在転送がアクティブにされた場合、不在転送の宛先は [コーリング サーチ スペース] と [不在転送の二次コーリング サーチ スペース] を使用して妥当性が検査され、不在転送の宛先がデータベースに書き込まれます。不在転送がアクティブの場合、不在転送の宛先の妥当性は、常に不在転送の [コーリング サーチ スペース] および [不在転送の二次コーリング サーチ スペース] と照合して検査されます。

管理者は、自動転送情報表示オプションを最初の着信番号、またはリダイレクトされた着信番号、またはその両方に設定できます。管理者は、発呼側回線 ID の表示および発呼名の表示を有効または無効にすることができます。表示オプションは、各ライン アピアランスに対して設定できます。

自動転送のビジー トリガーが各ライン アピアランスに設定されます。最大値は、ライン アピアランスに設定されたコールの最大数です。自動転送のビジー トリガーは、回線のアクティブ コール数を判別して、自動転送のビジー設定を有効にします (たとえば、10 コール)。

自動転送の無応答呼び出し時間が、各ライン アピアランスに設定され、デフォルトには 12 秒が指定されます。自動転送の無応答呼び出し時間は、呼び出し音が鳴っている時間を判別して、自動転送の無応答呼び出し設定を有効にします。



ヒント

ユーザが発信コールや転送を行うことができるよう、ビジー トリガー値はコールの最大数よりわずかに小さくしておいてください。

自動転送は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内の [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで設定します。

Cisco Unified Communications Manager で提供されているサービス パラメータ (CFA Destination Override) を使用すると、Call Forward All (CFA; 不在転送) の宛先が CFA の開始側にコールしたときに、管理者が CFA を上書きできます。この上書きによって、重要なコールの場合に CFA の宛先が開始側に到達できるようになります。つまり、コールの転送先ユーザ (宛先) がコールの転送元ユーザ (開始側) にコールした場合、自動転送が宛先に対して再度実行されるのではなく、開始側の電話機の呼び出し音が鳴ります。この上書きは、CFA の宛先電話番号が内部と外部のどちらであっても機能します。

CFA Destination Override サービス パラメータが [False] に設定されている場合 (デフォルト値)、上書きは発生しません。CFA の上書きを有効にするには、このサービス パラメータを必ず [True] に設定します。サービス パラメータの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービス パラメータの設定」を参照してください。



(注)

CFA の上書きが発生するのは、CFA の宛先が開始側と一致し、CFA Destination Override サービス パラメータが [True] に設定されている場合だけです。このサービス パラメータが [True] に設定され、開始側が CFA の宛先と一致していない場合、CFA の上書きは発生せず、CFA は有効なままになります。

コール診断と音声品質のメトリック

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで Call Diagnostics Enabled サービス パラメータを設定すると、コール診断と音声品質のメトリックを収集するよう、SCCP および SIP を実行している Cisco Unified IP Phone を設定できます。

SIP によって、Cisco Unified IP Phone 7911、7941、7961、7970、および 7971 ではコール診断および音声品質メトリックが完全にサポートされます。サポート内容には、コール終了レポート、通話中レポート（コール保留やメディア切断など）、および音声品質メトリックが含まれます。SIP を実行している Cisco Unified IP Phone 7905、7912、7940 および 7960 では、音声品質メトリックおよび通話中レポートは報告されません。Cisco Unified IP Phone で SIP の音声品質メトリックを有効にするには、[SIP プロファイルの設定 (SIP Profile Configuration)] ウィンドウで [コールの統計 (Call Stats)] チェックボックスをオンにします。

コール診断および音声品質のメトリックを使用できる Cisco Unified IP Phone を設定する方法については、Cisco Unified IP Phone のユーザおよび管理者用マニュアルを参照してください。

コール パーク

コール パーク機能を使用すると、あるユーザがコールを保留にした後、Cisco Unified Communications Manager システムでコール パークを使用するよう設定されている任意のユーザが、そのコールを取り出せるように設定できます。

たとえば、あるユーザが内線番号 1000 でアクティブ コールを受けている場合、コール パーク専用内線番号（たとえば、1234）にそのコールを保留することができます。別のユーザは、1234 にダイヤルすると、そのコールを取り出すことができます。

コール パークを使用するには、電話機能の設定時に、Cisco Unified Communications Manager の管理ページ中にコール パーク専用内線番号（この場合、1234）を追加する必要があります。コール パークの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コールパークとダイレクト コールパーク」を参照してください。

コール ピックアップ

Cisco Unified Communications Manager では次のタイプのコール ピックアップを提供します。

- コール ピックアップ：ユーザは、指定したコール ピックアップ グループ内の呼び出し音が鳴っている電話機に応答できます。
- グループ コール ピックアップ：ユーザは、別のピックアップ グループ内の着信コールに応答できます。
- 他グループ コール ピックアップ：ユーザは、本人が所属するグループに関連付けられたピックアップ グループ内の着信コールに応答できます。

3 つのタイプのコール ピックアップはいずれも自動または手動で操作できます。Auto Call Pickup Enabled サービス パラメータが有効の場合、電話機にある次のソフトキーのいずれかを押しすと、Cisco Unified Communications Manager は着信コールに自動的に接続します。

- [ピック]：コール ピックアップの場合（ユーザが所属するピックアップ グループ内のコール）
- [G ピック]：グループ コール ピックアップの場合（別のピックアップ グループ内のコール）
- [他 Grp]：他グループ コール ピックアップの場合（ユーザが所属するピックアップ グループに関連付けられたピックアップ グループ内のコール）

コール ピックアップ機能を自動化すると、グループ コール ピックアップを除き、コール接続に使用するキー入力は 1 回だけで済みます。電話機の [G ピック] ソフトキーを押してから、他のピックアップ グループの DN をダイヤルします。



(注)

CTI アプリケーションでは、コールに回答している通話者を監視できます。しかし、コールの発信者または回答されたコールの着信先を監視することはできません。したがって、Cisco Unified Communications Manager Assistant では自動コール ピックアップ (ワンタッチ コール ピックアップ) は使用できません。

コール ピックアップ機能は、Cisco Unified Communications Manager に電話機能を設定する際に設定します。

コール ピックアップ グループは、回線を追加するときに指定できます。コール ピックアップ グループには、(指定されたパーティション内で) この電話番号へのコールに回答するためにダイヤル可能な番号を指定します。コール ピックアップの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コール ピックアップ グループ」を参照してください。

コール ピックアップ通知

この機能は、ユーザの所属しているピックアップ グループの電話機にコールが着信したときに、ユーザがオーディオ アラートまたはビジュアル アラートを受信できるようにするものです。複数回線の電話機では、プライマリ回線に関連付けられたピックアップ グループのアラートのみ受信できます。

次の通知パラメータを [コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウで設定できます。

- 通知のタイプ (オーディオ、ビジュアル、オーディオとビジュアルの両方、または通知なし)
- ビジュアル通知メッセージの内容 (着信側 ID、発信側 ID、発信側と着信側の ID、または通知なし)
- コールが元の着信側に到達した時点から、コール ピックアップ グループの残りのメンバーに通知するまでの待ち時間 (秒単位)

電話機がアイドル状態または使用中のときに提供されるオーディオ通知のタイプは、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで設定できます。コール ピックアップ通知を設定する方法については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コール ピックアップ グループ」を参照してください。

コール選択

[選択] ソフトキーを使用すると、ユーザは、機能を使用するコールを選択することや、同一のライン アピアランスを共有する他のデバイスからのコールをロックすることができます。選択されたコールで [選択] ソフトキーを押すと、コールの選択を解除します。

コールがデバイスによって選択されると、ライン アピアランスを共有する他のすべてのデバイスが Remote-In-Use 状態になります。Remote-In-Use 状態のコールを選択することはできません。つまり、コール インスタンスを選択することによって、同一のライン アピアランスを共有する他のデバイスからコールをロックします。

選択されたコールは、特別な表示記号によって識別されます。

コール選択は、SIP 電話機および SCCP 電話機でシェアドラインをサポートしています。シェアドライン以外での選択は、SIP 電話機ではサポートされません。

Cisco Unified Phone Application Suite

Cisco Unified Phone Application Suite は、Cisco Unified IP Phone 上で動作するアプリケーションスイートです。シスコおよびサードパーティのサービスとアプリケーションへの統合アクセスを提供し、共通のルックアンドフィールをサポートします。

Cisco Unified Phone Application Suite は、次の機能をサポートしています。

- デスクトップ (PC) GUI アプリケーション
- IP Phone の呼び出し音のパーソナライズ (グラフィカルなサウンド エディタを使用)
- IP Phone の壁紙のパーソナライズ (グラフィカルなイメージ エディタを使用)
- Cisco Unified Communications Manager での Cisco Unified Phone Application Suite の認証と設定、および呼び出し音 / 壁紙 API のサポート
- 各 IP Phone の Cisco Unified Phone Application Suite を有効または無効にするための Cisco Unified Communications Manager での管理のサポート

電話機に対して Cisco Unified Phone Application Suite を設定するには、管理者が次の項目を設定する必要があります。

- Phone Personalization エンタープライズ パラメータを [Enabled] に設定する (デフォルトでは無効)。
- [電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)] フィールドのある [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ (CTI ポートを含む) および [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウを使用する。
- [プラグイン] 設定ウィンドウ ([アプリケーション] > [プラグイン]) で、Cisco Unified Phone Application Suite Installer プラグインをダウンロードする。URL 情報を入力し、[プラグインをユーザオプションページに表示する (Show Plugin on User Option Pages)] チェックボックスをオンにします。ユーザに対して、Cisco Unified Phone Application Suite プラグインをユーザ オプション ページで使用できることを通知し、ユーザが各自のデスクトップにプラグインをダウンロードできるようにします。詳細については、『Cisco Unified Phone Application Suite Installation and User Guide』を参照してください。

会議のリンク

高度なアドホック会議では、アドホック会議を別のアドホック会議に個々の参加者のように追加して、複数のアドホック会議をリンクし、統合することができます。会議のリンクには、リニアとノンリニアの 2 タイプがあります。

会議リスト

会議リスト機能は、アドホック会議の参加者の電話番号をリストにして提供します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページに設定されている参加者の名前だけが表示されます。

どの参加者も電話機に 会議リスト機能 を呼び出し、参加者を表示できます。会議の管理者は、会議リスト機能 を呼び出して [削除] ソフトキーを使用すると、会議の参加者を表示および削除できます。

接続先番号の表示

コールがトランスレーション パターンまたはルート パターンを通じてルーティングされる場合、Call Forward All (CFA; 不在転送) または Call Forward Busy (CFB; 話中転送) の宛先にルーティングされる場合、コール転送または CTI アプリケーションを通じてリダイレクトされる場合は、接続先番号の表示が更新され、変更先またはリダイレクト先の番号が表示されます。

接続先番号の表示が制限されている場合、接続先回線 ID の表示は、コールが継続している間のみ、ダイヤル番号のみに制限されます。

接続先番号の表示の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Call Display Restrictions 機能」を参照してください。

デバイス モビリティ

Cisco Unified Communications Manager は、IP サブネット、およびロケーション情報を含んだデバイス プールを使用してデバイスのホーム ロケーションを判別します。IP サブネットをロケーションにリンクすると、デバイスがホーム ロケーションとリモート ロケーションのどちらにあるかをシステムが特定し、適切にデバイスを登録することができます。

デバイス モビリティをサポートするために、デバイス プールの構造が変更され、ユーザ情報がロケーションおよびモビリティの情報から分離されます。デバイス プールには、デバイス自体およびデバイス モビリティに固有の情報が保持されています。追加される共通プロファイルを利用して、管理者はユーザに関連するすべての情報を設定できます。管理者は、各デバイスをユーザ ベースの情報の共通プロファイルに関連付ける必要があります。

デバイス モビリティの設定については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager デバイス モビリティ」を参照してください。

直接転送

[D 転送] および [選択] ソフトキーを使用すると、ユーザは、任意の確立された 2 つのコールを転送し、IP Phone からコールを削除できます。直接転送の詳細については、P.16-9 の「1 つの電話番号による複数コールの発信および受信」を参照してください。

ダイレクト コール パーク

ダイレクト コール パークは、ユーザが選択して待機状態になっているダイレクト コール パーク番号に対して、パークされているコールをユーザが転送できる機能です。ダイレクト コール パーク番号は、Cisco Unified Communications Manager の [ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定します。電話機がダイレクト コール パーク Busy Lamp Field (BLF) ボタンをサポートしている場合、特定のダイレクト コール パーク番号のビジー / アイドルステータスを監視するようにその電話機を設定できます。また、ユーザは BLF ボタンを使用してダイレクト コール パーク番号を短縮ダイヤルすることもできます。

ユーザは、コールを取得するための設定済みプレフィックスをダイヤルし、次にダイレクト コール パーク番号をダイヤルすることで、パークされているコールを取得できます。



(注)

コール パーク (保留機能) とダイレクト コール パーク (転送機能) は、相互に排他的なものとして扱うことをお勧めします。一方を有効にする場合はもう一方を無効にし、同時に両方を有効にしないでください。両方とも有効にする場合は、それぞれの機能に割り当てる番号を、互いに排他的で重複しないものにする必要があります。

ダイレクト コール パークの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コールパークとダイレクト コールパーク」を参照してください。

サイレント

サイレント (DND; Do Not Disturb) 機能を使用すると、着信コールの呼び出し音をオフにすることができます。DND が有効になっているときは、Cisco Unified IP Phone のビープ音またはフラッシュで着信コールを通知することもできます。ユーザは、各自の Cisco Unified IP Phone またはユーザ オプション Web ページで DND を直接設定することができます。

DND が有効になっているときは、通常の優先順位を持つ新しいコールが着信した場合、常にデバイスの DND 設定が優先されます。Cisco Emergency Responder (CER) からのコールや Multi-Level Precedence and Preemption (MLPP) を使用したコールなど、優先順位の高いコールについてはデバイスで呼び出し音が鳴ります。また、DND を有効にすると自動応答機能は無効になります。

ユーザは、次の任意の方法で DND を有効および無効にすることができます。

- ソフトキー
- 機能回線キー
- Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプション Web ページ

システム管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで電話機ごとに DND を有効および無効にすることができます。

サイレント機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「サイレント」を参照してください。

保留復帰

保留復帰は、コールの保留期間が所定の時間制限を超えたときに、電話機のユーザに警告する機能です。コールの保留期間が制限値を超えた場合、Cisco Unified Communications Manager は電話機で呼び出し音やビープ音などのアラートを生成して、コールを処理するようにユーザに通知します。保留期間が所定の時間制限を超えると、保留されていたコールは復帰コールになります。たとえば、この機能を設定して、コールが 30 秒にわたって保留されたままになった時点で通知が発生するようにした場合、Cisco Unified Communications Manager は呼び出し音やビープ音などのアラートを 30 秒後に電話機に送信します。所定の間隔で再確認アラートを生成するように設定することもできます。ユーザは、電話機をオフフックにすることで保留復帰コールを取得できます。保留復帰機能は非アクティブになります。

管理者は、サーバまたは回線の保留復帰タイマーおよび機能のその他の設定値を Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定します。

- [保留復帰の呼び出し時間 (Hold Reversion Ring Duration、秒)] タイマーには、保留を実行した側の電話機に復帰コールアラートを発行するまでの待機時間を指定します。
- [保留復帰の通知間隔 (Hold Reversion Notification Interval、秒)] タイマーには、保留を実行した側の電話機に定期的な再確認アラートを送信する頻度を指定します。
- [復帰コールのフォーカス優先度 (Reverted Call Focus Priority)] には、ユーザが電話機をオフフックにするなどの操作を実行した場合に、着信コールと復帰コールのどちらのコールタイプにフォーカスが移動するかを指定します。

保留復帰の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「保留復帰」を参照してください。

即時転送

即時転送機能では、ユーザがコールをボイス メッセージ システムにただちに転送できます。マネージャとアシスタントなど、回線を共有している場合にこの機能を使用できます。コールが転送されると、回線では新しいコールを発信または受信できるようになります。

Use Legacy iDivert サービス パラメータが [False] に設定されている場合、転送を開始するユーザが着信コールの転送先となるボイスメールボックスを選択できます。転送を開始するユーザが選択できるのは、最初の着信側のボイスメールボックスまたは転送を開始するユーザのボイスメールボックスです。

即時転送機能にアクセスするには、[即時転送] ソフトキーを使用します。このソフトキーを設定するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページ内の [ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウを使用します。ソフトキー テンプレートは、Cisco Unified Communications Manager システムにある電話機に割り当てられます。

即時転送の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「即時転送」を参照してください。

インターコム

インターコムを使用すると、事前定義済みのターゲットにコールを発信できます。コール先は、ミュートをアクティブにした状態で、コールにスピーカフォンモードで自動応答します。発信側と宛先の間に一方向の音声パスが確立され、発信側は着信側がビジーかアイドルかにかかわらず、短いメッセージを配信できます。インターコム コールが自動応答されたときに着信側の音声が発信者に送り返されないようにするため、Cisco Unified Communications Manager はウィスパー インターコムを実装しています。ウィスパー インターコムとは、発信者から着信側への一方向だけのオーディオです。着信側は、発信側と通話するには手動でキーを押す必要があります。

インターコムを設定する方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』および『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』のインターコムの章を参照してください。

参加

[参加] ソフトキーを使用すると、ユーザは最大 15 の確立されたコールに参加させて会議を作成することができます (合計数 16)。参加の詳細については、P.16-9 の「1 つの電話番号による複数コールの発信および受信」を参照してください。

回線をまたいで参加

回線をまたいで参加の機能を使用すると、複数の電話回線 (電話番号が異なる回線または電話番号が同じでパーティションが異なる回線) 上のコールに参加させ、会議を作成できます。回線をまたいで参加の機能の詳細については、P.16-9 の「1 つの電話番号による複数コールの発信および受信」を参照してください。

ハント グループからのログアウト

ハント グループからのログアウト機能を使用すると、電話機のユーザが、各自の電話機をログアウトできます。ログアウト後は、その電話回線が関連付けられた回線グループに属している電話番号にコールがルーティングされても、受信しなくなります。電話機に関連付けられた回線グループ宛のコールではない着信コールについては、電話機のステータスにかかわらず、電話機の呼び出し音は通常どおりに鳴ります。電話機にログイン状態が表示されるため、ユーザは、自分が回線グループにログインしているかどうかを電話機を見て確認できます。

ハント グループからのログアウト機能は、次のコンポーネントでも利用されています。

- [ハント] ソフトキーを使用すると、電話機のユーザが、その電話機の電話番号が属しているすべての回線グループから電話機をログアウトできます。[ハント] ソフトキーは、[ソフトキーレイアウト設定 (Softkey Layout Configuration)] ウィンドウで設定します。ユーザが [ハント] ソフトキーを押すと、電話機の画面に「ハントグループからログアウト」と表示されます。ユーザが [ハント] ソフトキーをもう一度押して再ログインし、ハント グループ コールを受信すると、電話機の画面の「ハントグループからログアウト」通知はクリアされます。
- この機能を有効にするには、[サービスパラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウの [Clusterwide Parameters (Device - Phone)] セクションで、Cisco CallManager サービスの Hunt Group Logoff Notification サービス パラメータを設定する必要があります。

ハント グループからのログアウト機能はデバイス単位で設定され、シェアドライン以外の場合とシェアドラインの場合では動作が異なります。

迷惑呼 ID (MCID)

MCID 機能は、迷惑電話または脅迫電話をトラッキングする有効な方法を提供します。ユーザがこのタイプのコールを受信した場合、Cisco Unified Communications Manager システム管理者は、[迷惑呼] ソフトキーをユーザの電話機に追加する新しいソフトキー テンプレートを割り当てることができます。SCCP ゲートウェイに接続された POTS 電話機では、ユーザはフックフラッシュを使用して、*39 の機能コードを入力し、MCID 機能呼び出すことができます。

MCID の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「迷惑呼 ID」の章を参照してください。

モバイル コネクトとモバイル ボイス アクセス

モバイル コネクトを使用すると、ユーザは単一の電話番号を使用してビジネス コールを管理し、進行中のコールをデスクの電話機および携帯電話でピックアップすることができます。モバイル ボイス アクセスは、モバイル コネクト コールの開始、およびモバイル コネクト機能のアクティブ化と非アクティブ化に使用される IVR (Interactive Voice Response; 対話型音声応答) システムを通じて、モバイル コネクト機能を拡張します。

モバイル コネクトおよびモバイル ボイス アクセスの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「モバイル コネクトとモバイル ボイス アクセス」を参照してください。

監視と記録

Cisco Unified Communications Manager は、サイレント コール監視およびコール記録をサポートしています。

コール センターは、コール センターの職員が提供する顧客サービスの質を保証できる必要があります。職員を法的責任から保護するには、職員と顧客の会話をコール センターがアーカイブできる必要があります。

サイレント コール監視機能を使用すると、職員と顧客の会話を監督者が傍受できます。監視セッションが職員に気付かれることはありません。

コール記録機能を使用すると、システム管理者または承認を受けた担当者が、職員と顧客の会話をアーカイブできます。

監視と記録の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「モニタリングと録音」を参照してください。

オンフック コール転送

コール転送機能は、コール転送を完了するための実行可能な最後のステップとして、オンフック (受話器を置く) アクションをサポートしています。オンフック コール転送を成功させるには、Transfer On-hook Enabled サービス パラメータを [True] に設定する必要があります。このサービス パラメータはオンフック コール転送を使用可能にします。サービス パラメータを [False] に設定すると、オンフック アクションによって第三者へのセカンダリ コールが終了します。

既存の実装では、ユーザ B が特定の回線で (ユーザ A から) アクティブ コールを受けた場合、ユーザ B によってこの回線上のコールが最大数に達していなければ、ユーザ B の Cisco Unified IP Phone に [転送] ソフトキーが表示されます。ユーザ B が [転送] ソフトキー (または使用可能であれば転送ボタン) を 1 回押すと、ユーザ B にはダイヤル トーンが聞こえ、セカンダリ コールを発信できる状態になります。ここで、ユーザ B が第三者 (ユーザ C) の番号をダイヤルします。Cisco Unified Communications Manager により、ユーザ B に [転送] ソフトキーが再度表示されます。ユーザ B が [転送] ソフトキー (または使用可能であれば転送ボタン) を再度押すと、転送動作が完了します。

オンフック コール転送の実装では、ユーザ B は、ユーザ C の番号をダイヤルした後で受話器を置くことで転送を完了させることができます。既存の実装と新しい実装はいずれも、ブラインド転送 (ユーザ C が応答する前にユーザ B が接続解除する) の場合にも、打診転送 (ユーザ B はユーザ C が応答するまで待機し、ユーザ A からのコールであることを通知する) の場合にも機能します。

以前の实装は変更されていません。したがって、ユーザ B は [転送] ソフトキーを 2 回押して転送を完了させることができます。

ピアツーピア イメージ配信 (PPID)

PPID 機能は、帯域幅の限られた WAN リンク経由で事業所が配置されているシナリオにおいて、ファームウェアのアップグレードを最適化します。また、高速なキャンパス LAN の構成においても、中央 TFTP サーバへの TFTP 転送による輻輳を削減することで有用なものになり、定期的なリセット、およびその他の形でのファームウェア アップグレードの手動制御を不要にします。PPID が有効になっている場合、電話機は、サブネット上でファームウェア イメージのコンフィギュレーション ファイルを要求している類似の電話機を検出して、ファイルごとの転送階層を自動的に構築することができます。ファームウェア イメージを構成する個々のファイルを TFTP サーバから取得できるのは、階層内のルート電話機だけです。ファイルは、TCP 接続を使用して転送階層の下方向にすぐに転送され、サブネット上の他の電話機に到達します。

PPID は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウから [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] の [Peer Firmware Sharing] 設定を使用して設定します。このメニュー オプションは、電話機で PPID をサポートするかどうかを示しています。設定値は、有効または無効 (デフォルト) です。

多数の電話に PPID 機能を設定するには、一括管理ツールの [電話テンプレート (Phone Template)] ウィンドウにある [Peer Firmware Settings] フィールドを使用します。『Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド』を参照してください。

品質レポート ツール

品質レポート ツール (QRT) は、Cisco Unified IP Phone の音声品質および一般的な問題の報告ツールです。これを使用すると、ユーザが自分の IP Phone に関するオーディオおよびその他の一般的な問題を、簡単かつ正確に報告できるようになります。QRT は Cisco Unified Communications Manager のインストール時にロードされ、Cisco Extended Functions (CEF) サービスによってサポートされます。

QRT 機能を有効にするには、システム管理者として、ソフトキー テンプレートの作成、設定、および割り当てを行い、ユーザの IP Phone 上の QRT ソフトキーに関連付けます。QRT に必要なユーザ対話のレベルに応じて、2つの異なるユーザ モードのどちらかを選択できます。次に、システムにおける機能の動作を定義するため、システム パラメータを設定し、Cisco Unified Serviceability ツールを設定します。QRT Viewer アプリケーションを使用すると、IP Phone の問題に関するレポートを作成、カスタマイズ、および表示できます。

QRT 機能のサポートは、次の機能を含む IP Phone すべてが対象となります。

- ソフトキー テンプレートのサポート
- IP Phone サービスのサポート
- CTI による制御が可能
- 内部 HTTP サーバを含む



(注)

詳細については、次の URL で、使用する電話機に該当する Cisco Unified IP Phone ガイドを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/hw/phones/ps379/tsd_products_support_series_home.html

IP Phone に問題が発生した場合、ユーザは次のいずれかのコール状態で Cisco Unified IP Phone 上の [品質] ソフトキーを押すと、問題や他の関連統計のタイプを報告できます。

- Connected
- Connected Conference
- Connected Transfer
- On Hook

サポート対象のコール状態において、適切な問題分類カテゴリを使用した場合、ユーザは報告する IP Phone の問題を説明するのに最適な理由コードを選択できます。IP Phone の問題に関するレポートをカスタマイズすると、特定の情報が得られます。

品質レポート ツール機能の設定方法と使用方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Quality Report Tool」を参照してください。QRT Viewer の設定方法と使用方法の詳細については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

ユーザ インターフェイスについては、使用する IP Phone に該当する Cisco Unified IP Phone のマニュアルと『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。

サービス URL

エクステンション モビリティ サービスなどの Cisco Unified IP Phone サービス URL を電話ボタンに設定できます。ボタンが押されると、サービスが呼び出されます。

サービス URL をユーザの電話ボタンに設定するには、管理者が次の手順を実行します。

1. [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] を使用して、サービスを作成します。
2. [電話ボタン テンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] を使用して、サービス URL 機能が含まれたカスタム電話ボタン テンプレートを作成します。
3. [電話の設定 (Phone Configuration)] を使用して、サービス URL ボタンを必要とする各電話機にカスタム電話ボタン テンプレートを追加します。
4. [電話の設定 (Phone Configuration)] を使用して、適切な各サービスに登録します。
5. [電話の設定 (Phone Configuration)] を使用して、サービス URL ボタンを追加します。
6. ユーザ オプション メニューで [サービス URL ボタンの追加または更新] リンクを使用して、電話機にサービスを設定するようにユーザに通知します。

ワンボタン割り込み /C 割り込み

ワンボタン割り込み /C 割り込みおよびプライバシーの機能は、連携して動作します。いずれの機能も、SCCP 電話機でシェアドラインだけを使用して機能します。



(注)

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能は、SIP 電話機では動作しません。

割り込みおよび C 割り込み機能は、進行中のコールにユーザを追加します。ワンボタン割り込み /C 割り込み機能を使用すると、ユーザはコールのシェアドライン ボタンを押すだけで、自分自身をそのコールに自動的に追加できます。現在コール中のユーザにはトーンが聞こえます。

プライバシーを使用すると、ユーザは回線を共有したデバイスの他のユーザがデバイス コール情報を表示することを許可または禁止したり、別のユーザがアクティブ コールに割り込むことを許可したりすることができます。

ワンボタン割り込み /C 割り込み機能の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。

短縮ダイヤル (ボタン) および短縮ダイヤル (ソフトキー)

Cisco Unified Communications Manager は、最大 99 の短縮ダイヤル エントリの設定をサポートします。これらの短縮ダイヤル エントリには、電話ボタンおよび短縮ダイヤル (ソフトキー) を使用してアクセスします。

ユーザが最大 99 の短縮ダイヤル エントリを設定する場合、短縮ダイヤル エントリの一部を IP Phone の短縮ダイヤル ボタンに割り当てることができ、残りの短縮ダイヤル エントリが短縮ダイヤル (ソフトキー) に使用されます。ユーザが番号をダイヤルし始めると、[短縮] ソフトキーが表示されます。ユーザが適切なインデックスを入力すると、任意の短縮ダイヤル エントリにアクセスできます。短縮ダイヤル (ボタン) の設定については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「短縮ダイヤル ボタンの設定」を参照してください。

電話機の関連付け

ユーザは、電話機などの一部のデバイスをコントロールできます。ユーザとして指定されたアプリケーションは、CTI ポートなど他のデバイスをコントロールします。ユーザが電話機の制御権を持つ場合、その電話機の特定の設定値 (たとえば、短縮ダイヤルや自動転送) をコントロールできます。電話機とユーザとの関連付けの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザとデバイスとの関連付け」を参照してください。

電話機管理上のヒント

次の項では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで電話機を設定する際に役立つ情報を記載しています。

電話機の検索

次の項では、電話機を検索する方法を変更する方法について説明します。ネットワーク内に何千もの Cisco Unified IP Phone がある場合は、必要な電話機を見つけるために、絞り込み検索を行う必要があります。目的の電話機が見つからない場合は、検索対象を拡大して、表示される電話機を増やす必要があります。ユーザが現在ログインしているデバイスを検索する方法については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「アクティブにログインしているデバイスの検索」を参照してください。



(注)

電話機の検索では、大文字と小文字は区別されません。

デバイス名による検索

電話機を追加するときに、[MAC アドレス (MAC Address)] フィールドにデバイスの MAC アドレスを入力すると、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウでその値をデバイス名として使用して検索できます。

説明による検索

電話機を追加するときに、[説明 (Description)] フィールドにユーザ名または内線番号 (もしくはその両方) を入力すると、[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウでその文字や数値を使用して検索できます。

電話番号による検索

電話機をその電話番号 (DN) によって検索するには、[電話番号] を選択します。検索条件 ([が次の文字列で始まる] や [が次の文字列で終わる] など) を選択し、[検索] ボタンの下のドロップダウンリスト ボックスから電話番号を選択するか、検索文字列を入力します。[検索] ボタンをクリックして検索を実行します。



(注)

一部の電話番号は、電話機に関連付けることはできません。割り当てられていない DN と呼ばれる電話番号を検索するには、[ルート プラン レポート (Route Plan Report)] ウィンドウを使用するか、電話番号の設定の検索と一覧表示のウィンドウを使用します。

コーリング サーチ スペースによる検索

コーリング サーチ スペースを選択する場合は、[検索] ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから、データベース表示で利用できるオプションのいずれかを選択できます。

デバイス プールによる検索

デバイス プールを選択する場合は、[検索] ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから、データベース表示で利用できるオプション (たとえば、[Default]) のいずれかを選択できます。

デバイス タイプによる検索

電話機をそのデバイス タイプによって検索するには、[デバイス タイプ] を選択し、デバイス タイプを入力するか、または [検索] ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスからデバイス タイプを選択します。

コール ピックアップ グループによる検索

電話機をそのコール ピックアップ グループによって検索するには、[コール ピックアップ グループ] を選択します。コーリング サーチ スペースを選択する場合は、[検索] ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから、データベース表示で利用できるオプションのいずれかを選択できます。または、[検索] ボタンだけをクリックします。

LSC ステータスによる検索

LSC ステータスを選択する場合は、[検索] ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから、データベース表示で利用できるオプション (たとえば、[Operation Pending]) のいずれかを選択できます。

認証文字列による検索

電話機を認証文字列によって検索するには、[認証文字列] を選択し、認証文字列を入力します。

デバイス プロトコルによる検索

電話機をプロトコルによって検索するには、[デバイス プロトコル] を選択し、SIP などのプロトコルを入力するか、または [検索] ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスからプロトコルを選択します。

セキュリティ プロファイルによる検索

電話機をそのセキュリティ プロファイルによって検索するには、[セキュリティ プロファイル] を選択し、セキュリティ プロファイルを入力するか、または [検索] ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスからセキュリティ プロファイルを選択します。

共通デバイス設定による検索

電話機をその共通デバイス設定によって検索するには、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] を選択し、共通デバイス設定の名前を入力するか、または [検索] ボタンの下にあるドロップダウンリストボックスから共通デバイス設定を選択します。

検索条件の絞り込み

検索条件をさらに追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加した条件を削除します。または、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除します。

データベース内のすべての電話機の検出

データベースに登録されているすべての電話機を検出するには、フィールドのリストからデバイス名を選択し、パターンのリストから「が空ではない」を選択します。次に、[検索] ボタンをクリックしてください。



(注) [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウ上のリストには、ゲートウェイ (たとえば、Cisco VG200) に接続されているアナログ電話機、および FAX マシンは含まれません。このリストに表示されるのは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページに設定された電話機だけです。

メッセージ ボタン

次のアクションを実行すると、Cisco Unified IP Phone 7970、7960、および 7940 上のメッセージ ボタンに対して、ボイス メッセージ アクセス番号を設定できます。この設定を行うと、ユーザはメッセージ ボタンを押すだけで、ボイス メッセージ システムにアクセスできます。

1. ボイスメール パイロット番号を設定するには、[ボイスメール] > [ボイスメール パイロット] を選択します。
2. ボイスメール プロファイルを設定するには、[ボイスメール] > [ボイスメール プロファイル] を選択します。
3. [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウ上の [ボイスメール プロファイル] フィールドから適切なプロファイルを選択します。デフォルトでは、このフィールドはデフォルトのボイスメール パイロット番号設定を使用するデフォルトのボイスメール プロファイルを使用します。



(注) 通常は、デフォルトのボイスメール パイロットおよびデフォルトのボイスメール プロファイルを編集して、ユーザサイトのボイス メッセージ サービスを設定します。



(注) Cisco IP Phone 12 SP+ および 30 VIP の場合、電話ボタン テンプレートを使用して、ボイス メッセージ サービスにアクセスするためのメッセージの受信機能を持つボタンを設定できます。

ディレクトリ ボタン

Cisco Unified IP Phone 7970、7960、および 7940 は、名前と電話番号のディレクトリを表示できます。IP Phone 上のディレクトリ ボタンからこのディレクトリにアクセスします。社内ディレクトリから連絡先を取得するエンド ユーザのために、管理者がユーザをディレクトリに入力する必要があります。連絡先を 1 つずつ入力するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ユーザ管理] ([ユーザ管理] > [エンドユーザ]) を使用します。一括管理ツール ([一括管理] > [エンドユーザ]) を使用して、複数のユーザを一括で追加することもできます。

IP Phone に表示できるこの他のディレクトリ タイプには、パーソナルディレクトリと電話ディレクトリがあります (不在履歴など)。これらのディレクトリの詳細については、個々の Cisco Unified IP Phone のユーザ ガイドを参照してください。

URL Directories エンタープライズ パラメータは、Cisco Unified IP Phone モデル 7970、7960、および 7940 上に表示される、グローバルディレクトリを指す URL を定義します。電話機の XML デバイス コンフィギュレーション ファイルに、この URL が保管されます。



ヒント

名前解決に DNS ではなく IP アドレスを使用する場合は、URL Directories エンタープライズ パラメータ値が、ホスト名にサーバの IP アドレスを使用していることを確認してください。

URL Directories エンタープライズ パラメータの変更後に電話機の URL が正しく更新されなかった場合、Cisco TFTP サービスをいったん停止した後、再起動を試みてください。その後、電話機をリセットしてください。

Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプション

Cisco Unified IP Phone ユーザは、各自の Web ブラウザを使用して Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプションにアクセスし、各種の機能を電話機で設定することができます。設定可能な機能には、ユーザ ロケール、ユーザ パスワード、自動転送、短縮ダイヤル、個人用アドレス帳などがあります。管理者は、エンタープライズ パラメータを [True] または [False] に設定することで、ユーザに対して使用可能にする機能を設定できます。たとえば、Show Speed Dial Settings エンタープライズ パラメータを [False] に設定すると、ユーザは自分の IP Phone に短縮ダイヤルを設定できなくなります。

Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプションにアクセスして使用方法の詳細については、個々の Cisco Unified IP Phone の電話ガイドを参照してください。

Maximum Phone Fallback Queue Depth サービス パラメータ

フェールオーバーおよびフォールバックは、Cisco Unified Communications Manager Business Edition システムではサポートされていません。Cisco CallManager サービスは、優先順位が現在より高い Cisco Unified Communications Manager を登録に使用できるとき、その Cisco Unified Communications Manager 上でキューに入れる電話機の数 Maximum Phone Fallback Queue Depth サービス パラメータを使用して制御します。デフォルトでは、毎秒電話機 10 台が指定されます。プライマリの Cisco Unified Communications Manager で障害が発生すると、電話機はセカンダリの Cisco Unified Communications Manager にフェールオーバーします。フェールオーバー プロセスは、現在登録しているデバイス数を調整するためのプライオリティ キューを使用して、ただちに発生します。

プライマリ Cisco Unified Communications Manager が復旧すると、電話機はその Cisco Unified Communications Manager に復帰します。ただし、電話機は稼働中の Cisco Unified Communications Manager (この場合はセカンダリ システム) に残ったままであるため、稼働中のシステムから管理

者が電話機をすぐに削除する必要はありません。キュー項目数の監視 (Maximum Phone Fallback Queue Depth サービス パラメータ設定値を使用) は、登録を要求している電話機が現在または今後登録されるかを判別するために行われます。キュー項目数が 10 (デフォルト) より大きい場合、電話機は現在の状態にとどまり、後でプライマリ 10 への登録を試みます。

Maximum Phone Fallback Queue Depth サービス パラメータは、[サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで変更できます。パフォーマンス値の設定が高すぎる場合は (最大設定値は 500)、電話機の登録により、Cisco Unified Communications Manager のリアルタイムの応答が遅くなる場合があります。値の設定が低すぎる場合は (最小設定値は 1)、大規模グループの電話機をプライマリ Cisco Unified Communications Manager に戻すのに要する合計時間が長くなります。

依存関係レコード

特定の電話機がどの電話番号を使用しているか、またはどの電話機に電話番号が割り当てられているかを調べるには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウまたは [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、[関連リンク] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード] リンクを選択します。[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウに、電話機を使用している電話番号に関する情報が表示されます。電話番号について詳細な情報を検索するには、電話番号をクリックして [依存関係レコード詳細 (Dependency Records Detail)] ウィンドウを表示します。依存関係レコードがシステムで有効にされていない場合は、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。

依存関係レコードの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「依存関係レコードへのアクセス」の項と「電話機からの電話番号の削除」の項を参照してください。

電話機のフェールオーバーとフォールバック

この項では、電話機が登録されている Cisco Unified Communications Manager が到達不能になる場合に、電話機がフェールオーバーとフォールバックを行う方法について説明します。また、電話機に関連したコールに影響を与える可能性がある状態（たとえば、リセットや再起動）についても説明します。

フェールオーバーおよびフォールバックは、Cisco Unified Communications Manager Business Edition システムではサポートされていません。

Cisco Unified Communications Manager に障害が起きるか、アクセス不能になる

アクティブ Cisco Unified Communications Manager の指定は、電話機がコール処理サービスを受け取る Cisco Unified Communications Manager に適用されます。アクティブな Cisco Unified Communications Manager は、通常、その電話機のプライマリ Cisco Unified Communications Manager として働きます（プライマリ マシンが使用不能である場合を除く）。

アクティブな Cisco Unified Communications Manager に障害が起きるか、アクセス不能になる場合、電話機は、その電話機が属するデバイス プールに指定されている Cisco Unified Communications Manager グループ内で、次に使用可能な Cisco Unified Communications Manager への登録を試みます。

プライマリ Cisco Unified Communications Manager が障害後に使用可能に戻ると、その電話機は、ただちにプライマリ Cisco Unified Communications Manager に登録されます。フェールオーバー時の電話登録の詳細については、P.37-44 の「[Maximum Phone Fallback Queue Depth サービス パラメータ](#)」を参照してください。



(注)

コールの進行中は、電話機はフェールオーバーまたはフォールバックしません。

電話機がリセットされた

コールが進行中の場合、そのコールが終了した後で電話機はリセットされます。

電話機設定チェックリスト

表 37-7 では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで手動で SCCP 電話機を設定する手順を説明しています。自動登録を使用している場合、Cisco Unified Communications Manager は、自動的に電話機を追加し、電話番号を割り当てます。

表 37-8 では、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで手動で SIP 電話機を設定する手順を説明しています。自動登録を使用している場合、Cisco Unified Communications Manager は、自動的に電話機を追加し、電話番号を割り当てます。

表 37-7 SCCP 用の電話機設定チェックリスト

設定ステップ		手順および関連項目
ステップ 1	<p>電話機について次の情報を収集します。</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル MAC アドレス 電話機の物理的なロケーション その電話機に関連付けられる Cisco Unified Communications Manager ユーザ パーティション、コーリングサーチスペース、およびロケーションの情報（使用する場合） 電話機に割り当てられる回線と関連 DN の数 	電話機の検索 (P.37-41)
ステップ 2	電話機を追加し、設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 3	電話機上で回線 (DN) を追加し、設定します。また、コールパーク、自動転送、およびコールピックアップなどの電話機能も設定できます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定」
ステップ 4	<p>短縮ダイヤル ボタンを設定します。</p> <p>ユーザに短縮ダイヤル ボタンを指定する場合、または特定のユーザに割り当てられていない電話機を設定しようとする場合は、電話機に短縮ダイヤル ボタンを設定できます。ユーザは、Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプションを使用して、電話機上の短縮ダイヤルの設定を変更できます。</p>	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「短縮ダイヤル ボタンの設定」
ステップ 5	<p>Cisco Unified IP Phone サービスを設定します。</p> <p>ユーザにサービスを提供する場合、または特定のユーザに割り当てられていない電話機を設定する場合は、Cisco Unified IP Phone 7970/71、7960/61、7940/41、7912、7905、および Cisco IP Communicator にサービスを設定できます。ユーザは、Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプションを使用して、電話機上のサービスを変更できます。</p>	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」

表 37-7 SCCP 用の電話機設定チェックリスト (続き)

設定ステップ		手順および関連項目
ステップ 6	必要な場合は、電話ボタンテンプレートとソフトキーテンプレートをカスタマイズします。各電話機に対してテンプレートを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「非標準ソフトキーテンプレートの作成」
ステップ 7	必要な場合、Busy Lamp Field 機能を設定します。BLF 短縮ダイヤルのボタンを設定するには、カスタマイズされた電話機ボタンテンプレートを使用する必要があります。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「BLF/短縮ダイヤルの設定値」
ステップ 8	必要な場合、電話ボタンにサービスを割り当てます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「IP Phone サービスの電話ボタンへの追加」
ステップ 9	Cisco Unified IP Phone に電源を供給してインストールを行い、ネットワークに接続できるか検証します。次にネットワークの設定を行います。	『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』
ステップ 10	ユーザを電話機に関連付けます (必要な場合)。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザのユーザ関連情報の設定」
ステップ 11	Cisco Unified IP Phone からコールします。	詳細については、個々の Cisco Unified IP Phone のユーザガイドを参照してください。

表 37-8 に、SIP をサポートする Cisco Unified IP Phone の設定手順を示します。サードパーティの SIP 電話機については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サードパーティ製 SIP 電話機の設定チェックリスト」を参照してください。

表 37-8 SIP 用の電話機設定チェックリスト

設定ステップ		手順および関連項目
ステップ 1	電話機について次の情報を収集します。 <ul style="list-style-type: none"> モデル MAC アドレス 電話機の物理的なロケーション その電話機に関連付けられる Cisco Unified Communications Manager ユーザ パーティション、コーリングサーチスペース、およびロケーションの情報 (使用する場合) 電話機に割り当てられる回線と関連 DN の数 	電話機の検索 (P.37-41)
ステップ 2	SIP 電話機をセキュアモードで設定するには、[Cisco Unified CM の設定 (Cisco Unified CM Configuration)] ウィンドウで [SIP 電話ポート (SIP Phone Port)] を設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified Communications Manager の設定」

表 37-8 SIP 用の電話機設定チェックリスト (続き)

設定ステップ		手順および関連項目
ステップ 3	セキュリティが必要な場合は、[電話セキュリティ プロファイルの設定 (Phone Security Profile Configuration)] を実行します。電話セキュリティ プロファイルを SIP 電話機に追加するには、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「電話機のセキュリティ プロファイルの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 4	SIP プロファイルを設定します。SIP プロファイルを SIP 電話機に追加するには、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「SIP プロファイルの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 5	タイミングの同期に NTP を使用している場合は、[電話用 NTP の設定 (Phone NTP Reference Configuration)] ウィンドウを使用して NTP サーバを設定します。NTP サーバを [日時グループの設定 (Date/Time Group Configuration)] に追加した後、日付 / 時刻グループをデバイス プールに割り当てます。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、デバイス プールを SIP 電話機に追加します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「電話機 NTP リファレンスの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「日付 / 時間グループの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「デバイス プールの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 6	桁数を収集してから Cisco Unified Communications Manager へ桁数を送信する場合は、SIP 電話機のダイヤル プランを設定します。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、SIP ダイヤル ルールを SIP 電話機に追加します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「SIP のダイヤル ルールの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 7	SIP 電話機を追加し、設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 8	電話機上で回線 (DN) を追加し、設定します。また、コール パーク、自動転送、およびコール ピックアップなどの電話機能も設定できます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「電話番号の設定」
ステップ 9	短縮ダイヤル ボタンを設定します。 ユーザに短縮ダイヤル ボタンを指定する場合、または特定のユーザに割り当てられていない電話機を設定しようとする場合は、電話機に短縮ダイヤル ボタンを設定できます。ユーザは、Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプションを使用して、電話機上の短縮ダイヤルの設定を変更できます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「短縮ダイヤル ボタンの設定」

表 37-8 SIP 用の電話機設定チェックリスト (続き)

設定ステップ	手順および関連項目
ステップ 10 Cisco Unified IP Phone サービスを設定します。 ユーザにサービスを提供する場合、または特定のユーザに割り当てられていない電話機を設定する場合は、Cisco Unified IP Phone 7970/71、7960/61、7940/41、7912、7911、7905、および Cisco IP Communicator にサービスを設定できます。ユーザは、Cisco Unified Communications Manager ユーザ オプション ウィンドウを使用して、電話機上のサービスを変更できます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 11 必要な場合は、電話ボタン テンプレートとソフトキー テンプレートをカスタマイズします。各電話機に対してテンプレートを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタン テンプレートの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「非標準ソフトキー テンプレートの作成」
ステップ 12 必要な場合、Busy Lamp Field 機能を設定します。BLF 短縮ダイヤルのボタンを設定するには、カスタマイズされた電話機ボタン テンプレートを使用する必要があります。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「BLF/短縮ダイヤルの設定値」
ステップ 13 必要な場合、電話ボタンにサービスを割り当てます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「IP Phone サービスの電話ボタンへの追加」
ステップ 14 Cisco Unified IP Phone に電源を供給してインストールを行い、ネットワークに接続できるか検証します。次にネットワークの設定を行います。	『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』
ステップ 15 ユーザを電話機に関連付けます (必要な場合)。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザとデバイスとの関連付け」
ステップ 16 Cisco Unified IP Phone からコールします。	詳細については、個々の Cisco Unified IP Phone のユーザ ガイドを参照してください。

参考情報

関連項目

- [電話番号の概要 \(P.16-1\)](#)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「自動登録の使用可能化」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザとデバイスとの関連付け」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ユーザ / 電話機の追加の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「共通電話プロファイルの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「SIP のダイヤルルールの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「SIP プロファイルの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話機 NTP リファレンスの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「サービス パラメータの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コールパークとダイレクト コールパーク」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「コール ピックアップグループ」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「即時転送」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「Quality Report Tool」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「プレゼンス」

参考資料

- 電話機およびこの Cisco Unified Communications Manager のバージョンをサポートする電話機の管理マニュアル
- Cisco Unified IP Phone のユーザ マニュアル
- 使用する電話機のファームウェア リリース ノート
- *Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration ガイド*
- *Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド*
- *Cisco Unified Communications Manager Assistant ユーザ ガイド*
- *Cisco IP Communicator アドミニストレーション ガイド*

